

研究紀要

# 松 径

第 23 号

平成 27 年 3 月

鹿児島県立志布志高等学校

## はじめに

校長 森永徳雄

平成26年度を振り返ると、我が鹿児島にとって世界に誇るべき大きな出来事があった。それは、南九州市知覧町お生まれで、二中（甲南高校）出身の赤崎勇氏がノーベル物理学賞を受賞されたことである。窒化ガリウムの結晶化についての長年の研究が、青色発光ダイオードの開発に繋がり、彼は、天野浩氏・中村修二氏と共に、ノーベル物理学賞を受賞されたのだ。

今から遡ること五年。私が甲南高校に教頭として在職していた時、パソコンのUSBに、「赤崎勇氏ノーベル賞受賞のコメント」が入っていた。中身は、赤崎勇氏のノーベル賞受賞に対する、校長と生徒会長の喜びのコメントであった。受賞されていないにもかかわらず、既にそういった準備が為されていたのだ。更にその数年前から、ノーベル物理学賞発表の前日には、新聞社による高校への取材が行われていた。そのような残念な取材が何回か繰り返された末に、今回の夢の実現となったのだ。このことは、出身地や母校はもとより鹿児島県民にとって、実に大きな喜びだった。

ところで、赤崎氏は国語力の大切さを次のように述べておられる。

「語学力は国際化の一つの要素ですが、話す中身がなければ何にもなりません。最近、学校で英語の授業を増やそうとしているでしょう。でも日本人はもっと国語をちゃんとやらないといけない。今はきれいな文章を書く学生が少ないですよ。まず日本の文化を理解していないと。自分のアイデンティティーがしっかりしていなければ、グローバル化に対応できるとは思えません。」

また、数学者であり作家でもある藤原正彦氏も、次のように述べておられる。

「国語力の低下は、知的な活動能力を低下させ、論理的思考力も低下させ、日本人としての情緒を低下させ、日本人としての拠り所である祖国愛の低下を同時に引き起こしているわけです。…つまり、国語力を取り戻すことが、日本人としての品性を育み、日本という国家の国柄を再生させる第一の要諦なのですよ。」

今の高校生は「ゆとり教育」で育ったこともあり、国語力を初めとした様々な分野の基礎学力が低下している。そんな中で、県の教育基本目標である「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」のためにも、第一にやらなければならないことは、国語力の強化ではないだろうか。

ここに、紀要「松陰」第23号の発刊の運びとなった。多忙な校務の中にあつて、玉稿を寄せてくださった執筆者並びに編集の労をとってくださった先生方に敬意を表します。

# 目 次

はじめに	学 校 長 森 永 徳 雄
1. 高等学校における漢文学習についての研究	・ ・ ・ ・ ・ 1 国 語 科 櫻 木 賢 一
2. ニュージーランド旅行記	・ ・ ・ ・ ・ 13 地歴公民科 渡 辺 卓 郎
3. 新課程における地学基礎の実験について	・ ・ ・ ・ ・ 22 実習 助手 山 口 真理子
4. 私的・史的・考古学の楽しみについて	・ ・ ・ ・ ・ 32 養 護 中 島 みどり
5. 平成26年度 鹿児島県音楽教育研究大会 曾於大会 研究授業 学習指導案（教科）	・ ・ ・ ・ ・ 41 音 楽 科 吉 村 奈緒子
6. パワーアップ研修 学習指導案（教科）	・ ・ ・ ・ ・ 46 英 語 科 吉 森 智 大
7. フレッシュ（初任校）研修 学習指導案（教科）	・ ・ ・ ・ ・ 50 数 学 科 中 村 亨
8. フレッシュ（初任校）研修 学習指導案（LHR）	・ ・ ・ ・ ・ 53 数 学 科 中 村 亨
9. 平成26年(1～12月)の記録	・ ・ ・ ・ ・ 58 教 務 部 東 健 二

編集後記

# 高等学校における漢文学習についての研究

国語科 櫻木賢一

## はじめに

昨年 12 月の中央教育審議会答申により、平成 27 年度に中学に入学する現小学 6 年生から、現行の大学入試センター試験に変わる新テスト（「大学入学希望者学力評価テスト」（仮称）の導入が示された。これにより、新テストの実施に向けた動きが本格化することが考えられる。高等学校の国語教育においては、これまでの「評論」「小説」「古文」「漢文」という四問からなっていた試験内容が、今後どのような形になっていくのかという点について関心が高い。その一方で、学校現場においては今いる生徒の学力をいかに伸ばし、進路目標の実現の繋げるかが今も昔も変わらない大きな課題である。

ここでは、現行のセンター試験の 4 分の 1 を占める「漢文」に焦点を絞り、その学習意義から課題について考察し、これを普段の授業などに活用することで、生徒の学力向上に役立てることを目的としている。

## 第 1 項 高等学校における漢文教育の意義

漢文教育の意義については、その前提として学校教育における「漢文」に関する定義が必要となる。昭和 26 年の『中学校高等学校・学習指導要領・国語科編（試案）』「第七章、国語科における漢文の学習指導」「一、漢文学習の範囲」で次のように示されている。

ここに漢文とよぶものは、

- (一) 漢民族によって作られた文語体の詩文。
- (二) それを学んで日本人が作った詩文。

のことであり、広い意味では、

- (三) 日本語を混じた漢字のみの文。

もはいる。そして、これらの漢文は、昔からわが国のことばで訓読されてきたものであり、その訓読の形式が国語に大きな影響を与えてきたのである。したがって、漢文は訓読されることによって、はじめてわが国語生活と結びつくものであるから、訓読することは、漢文学者における必要な条件である。

（文部省（1951）『中学校高等学校・学習指導要領・国語科編（試案）』）

また、『国語教育大辞典』では次のように定義されている。

漢文【定義】漢民族によって作られた文語体の詩文で、それを学んで作った日本人の詩文もいう。中国でなく、日本人が言いだした称呼。すべて漢字で書いてあって、それを訓読したもの。

(西尾実他編 (1957))

江連隆は、これらを「学校教育における漢文」として、以下の3種類にまとめている。

①文言文

- 1 中国人の手になる文語体の詩文。
- 2 右の文法形式と表現方法に従って作られた、日本人の手になる詩文。

②漢文

- 3 ①に返り点や送り仮名などの訓点（や句読点）を施したもの。

③書きくだし文

- 3 ①を仮名まじりの国文形式に書き換えたもの。

(江連 (1984)、pp.4-5)

私たち指導者は、学校教育の現場において、大方これと同様の認識のもとで漢文の授業を展開していると考えられる。では、なぜ私たち日本人は、国語の授業において、元来外国語である中国語の詩文を学ばなければならないのだろうか。現代の高校生が古典を学ぶことに必要性を感じていない原因の一つともなっているこのことについて、鎌田正は以下のように述べる。

高等学校で学習する漢文とは、学習指導要領にも明示するように、「古典としての漢文」であり、さらに言えば、「わが国の古典としての漢文」を意味するというのである。もともと中国に発生した漢籍をわが国の古典と呼ぶのは、漢籍の伝来以後、訓読の発明によって読解し、しかもそれが長期にわたって広く国民に愛読され、わが国の文化を形成する上に大きな役割を果たしてきたからである。わが国の古典といえ、ただちに源氏や平家をさすであろうが、そうした国文古典を作る源泉となったのが漢文古典であり、いうならば、わが国の古典の中の古典ともいうべきものが漢文古典である。そうした漢文古典を訓読の方法によって学習するのが高等学校国語科における漢文である。

(鎌田 (1974)、p.10)

もともと中国で発生した漢籍を、私たちの祖先は「訓読」という世界に例をみない画期的な方法で、原文のまま読むということを可能にした。そうして、中国の古典は私たち日本人の生き方やものの考え方に大きな影響を及ぼした。さらにそれを長い年月が経過した

現代において、中学生でも読むことができる。そう考えると、現在私たちが学ぶことのできる漢文は、鎌田正のいうとおり、「わが国の古典の中の古典」ということができる。

また、長く徳島県の公立高校の国語教師であった佐野泰臣もその著書『漢文教育考―その指導と実践―』のまえがきにおいて、鎌田正と同様に、漢文を学ぶ意義についていわゆる日本文化の源となったのは漢文の教養であり、それを学ぶことで先人たちの生き方やものの考え方を知ることにつながるとしている。

漢文をわが国の古典として大事に扱うのは、漢文が日本文化の源流であるといえるためであり、日本人の伝統的な心情を築き上げる基盤、すなわち日本の古典を生み出す基盤となったからである。高校生は、漢文を自ら作る必要はないが、漢文を読解することはぜひとも必要なのである。それは漢文の伝来により、日本の言語や文学、思想などに多大の影響を与え、日本人の心情や精神の背骨となり、重要な古典、記録を残すための手段ともなったからである。そこで、日本や中国の過去の言語・文化・思想などを正しく理解し、現在の言語・文化・思想などを十分に把握し、豊かな心を育てていくためにどうしても漢文に対する知識や教養が必要となってくるのである。『枕草子』や『源氏物語』などの日本の古典が大切なように、漢文はそれ以上に大切にしなければならない日本の古典といえるのである。日本の言語・文学・思想などの源流の一つは、中国文化を伝えた漢文の力によるものであり、漢文の知識や教養がなければ、日本のそれらを本当に理解することはできないのである。

ここに漢文学習の意義と目的がある。

(佐野 (1978) 「まえがき」)

21世紀は、「知識基盤社会」「グローバル社会」の時代であると言われている。このような現代社会において、今後ますます、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性は増大していく。つまり、このような時代だからこそ日本人としてのアイデンティティの確立が重要とされ、それを支える土台として漢文を学ぶ意義があると考えられないだろうか。

では、現行の学習指導要領において、漢文はどのように扱われているのか。周知の通り2008年に改定された小学校学習指導要領により、小学5、6年の段階で古典教材の取り扱いが可能になった。古典に関する部分を抜粋すると以下ようになる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

第5学年及び第6学年

- ・親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。
- ・古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

(文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領』)

このように小学校段階において「古典」や「漢文」の文言が見られる。また、『小学校学習指導要領解説』では、教材に関する説明として「わが国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く親しまれている和歌・物語・俳諧、漢詩・漢文などの古典や、物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品を取り上げるようにする。」とし、具体的に「漢詩・漢文」を取り上げることが明記されている。

同様に中学校においても「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設された。

#### 第1学年

- ・文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。
- ・古典には様々な種類の作品があることを知ること。

#### 第2学年

- ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。
- ・古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

#### 第3学年

- ・歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。
- ・古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

(文部科学省(2008)『中学校学習指導要領』)

ここには小学校での「音読」を通じて古典に親しみをもち、「昔の人のものの見方や感じ方を知る」という段階から、「音読」から「朗読」へ、「楽しむ」から「親しむ」へ、そして第3学年では「古典に関する簡単な文章を書く」ところまで発展させて古典を学ぶことが示されている。これについては、指導要領解説中に「このような書く活動を通して、生徒が自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れるようにすることが重要であり、それが「古典としての古文や漢文により一層親しむ態度を育てるとともに、我が国の伝統や文化についての関心を深め、これを継承・発展させようとする態度の育成にもつながる。」とある。つまり、小→中と古典を継続して学ぶことにより、義務教育が終了する段階で、これまで以上に学習者一人ひとりの、古典に親しみ、それを自分のものの見方や考え方に生かそうとする態度が育っていくことが予想される。

では、義務教育を終えほとんどの中学生が進学する高等学校における古典、特に漢文の取り扱いが指導要領においてどうなっているのだろうか。ここでは必修科目である「国語総合」について取り上げていきたい。

2009年に改定された『高等学校学習指導要領』においても、小中学校と同様に「伝統的な言語文化に関する事項」が新設された。指導要領解説ではこの指導に当たって配慮すべき事項として以下のような記述が見られる。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、今回の改訂で新たに置かれ、小学校及び中学校を通して一貫して指導している。この事項については、中学校の指導の上に立って継続的に指導を行い、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むこと of 具体的な活動を通して、その深化と発展を図る必要がある。特に伝統的な言語文化については、これを学ぶ意義を認識させることが大切である。

(文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 p.36)

さらにここに書かれる「これを学ぶ意義」についても、指導要領解説中に次のような具体的な記述が見られる。

「我が国の文化と外国の文化との関係」を取り上げているのは、我が国の文化を理解するに当たって、中国など外国の文化との関係が重要となるからである。我が国は中国の文化の受容とその変容とを繰り返しつつ独自の文化を築き上げてきた。その経緯を踏まえ、古文と漢文の両方を学ぶことを通して、両文化の関係に気付くことが大切である。古来、我が国は、文字、書物を媒介にして、多くのものを中国から学んだ。その結果、漢語や漢文訓読の文体が、現代においても国語による文章表現の骨格の一つとなっている。漢文を古典として学ぶこと of 理由はこの点にもある。

(文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 p.29)

これは、わたしたち日本人のもの of 見方や考え方がどのように形づくられたかという点において、如何に中国の影響が大きいかを表しており、先に挙げた鎌田正や佐野泰臣の考え方と重なる部分 of 大きい。わたしたち日本人は、漢文を学ぶことで、先人が築き上げてきた伝統と文化を尊重し、豊かな感性や情緒を備え、幅広い知識や教養を身につけることとなり、延いては文化の継承と創造、日本人としてのアイデンティティー of 確立へとつながっていくものと考えられる。

また「伝統的な言語文化と国語の特質に関する言語事項」 of 内容 of 取扱いについての配慮事項として、中学校の指導の上に立ち、他の3領域 of 指導の中で深めることが明記された上で、教材についての留意事項が以下のように記されている。

イ 古典 of 教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語などを適切に用い、特に漢文については訓点を付け、必要に応じて書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること。(後略、下線部筆者)

(文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 p.38)

訓点についてはその必要性をここで論じるまでもないが、書き下し文についても、生徒 of 実際や指導 of 段階を考慮したうえで、効果的に利用することが望まれている。「国語総合」

においても、中学校同様、漢文に対する興味・関心を広げていくよう配慮することが重要視されていると言える。また、解説では次のような記述も見られる。

古典を読み味わうためには、古典を理解するために基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていなければならないことは言うまでもない。しかし、従来その指導を重視し過ぎるあまり、多くの古典嫌いを生んできたことも否めない。そこで指導においては、古典の原文のみを取り上げるのではなく教材にも工夫を凝らしながら、古人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、それを広げたり深めたりする授業を実践し、まず古典を学ぶ意義を認識させ、古典に対する興味・関心を広げ、古典を読む意欲を高めることを重視する必要がある。そして、そのような指導を通して、古典を理解するための基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせていくことが大切である。

(文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 p.38)

ここでは、古典を読み味わうための基礎的・基本的な知識や技能の習得を説く一方で、多くの古典嫌いを生みだした原因が、技能中心の学習法にあったことを認め、そこからの脱却が叫ばれている。しかし、先に中学校指導要領で確認したように、中学生は、1年時に「文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れ」、2年時には「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽し」み、「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像」し、3年時には「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽し」み、「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像」して高校へ入学してくるのである。高等学校で、「中学校での指導の上に立って」指導をしていくためには、中学校と同じレベルで古典に親しむのではなく、学習者自身が、古典世界に対する理解の深まりを実感し、現代につながるものの見方や考え方を感じ取る必要があるということだろう。

上記のような漢文学習の意義についての記述は、現行の学習指導要領(平成15年施行)において、多くの高校1年生が学ぶ「国語総合」には見られず、2年時以降、主に受験科目として古典を必要とする学校が履修する教科「古典」の中で次のように目標として掲げられていた。

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

(文部科学省 (2001) 『高等学校学習指導要領』)

つまり、「古典」という科目をすべての高校生が履修していないことから、漢文学習の意義に対する意識が極めて低く、高等学校の漢文学習スタートの段階でその意義や目的につい

で考えることが少なかったことを意味している。しかし、今回の改訂により「国語総合」は必修科目となりすべての高校生1年生が学習することとなる。それと同時に、新学習指導要領においても漢文学習の意義や目的についての記述が明記されている。このことは入門期の学習者にとっても、それを指導する立場の指導者にとっても、漢文が社会に出るから役に立たないというイメージを払しょくするために非常に意味のあることだと考えられる。漢文学習を、受験のための学習から将来役に立つための学習へと転換させていくには、今回の改訂は絶好の機会ということができるとはならないだろうか。

## 第2項 高等学校における漢文教育の現状と問題点

次に、前項であげたような高等学校における漢文学習の意義を踏まえ、実際の授業はどのように展開されているのかについて、採り上げられている教材から考えていきたい。以下に示す表1は、平成27年度用「国語総合」で採り上げられている教材の一覧である（対象は10社、24冊）<sup>1</sup>。「国語総合」の標準単位が4単位であるので、それに見合った教科書を中心にみていくと、ほとんどの教科書が同じような教材を採り上げていることが分かる。これをジャンルごとに見ていくと、「論語」はすべての教科書に登場しており、漢詩も採り上げられている詩に多少の違いはあるものの、すべての教科書に載せられている。（孟浩然「春暁」、王維「送元二使安西」、杜甫「春望」、李白「黃鶴樓送孟浩然之広陵」などが多い。）故事成語や史話については載録数の多いものについては以下に挙げる。

表1 平成27年度用教科書「国語総合」で採録のおもな漢文教材一覧

ジャンル	作品名	載録数	ジャンル	作品名	載録数
故事成語	矛盾	11	史話	鶏鳴狗盗	8
	借虎威	11		臥薪嘗胆	7
	五十歩百歩	8		鶏口牛後	7
	蛇足	8		先從隗始	7
	漁父之利	6		死諸葛走生仲達	4

しかし、これらの所謂「定番教材」に偏る傾向は、今回の指導要領改訂後に見られるものではない。現代文や古文においても教材の定番化が見られるが、漢文に関しては「定番化」ではなく、ある種の「固定化」といってもいいような状況が長く続いている。

漢文教材の問題点については、安東俊六が「高等学校における漢文教育の再検討（続）」<sup>2</sup>の中で、すでに述べているが、それをまとめると以下の2点に集約される。

- |                         |
|-------------------------|
| 1 入門時に行なわれる「訓読のしかた」の必要性 |
| 2 中学校の教材との重複            |

1の「訓読のしかた」の必要性については、今日の社会で漢文の初歩の初歩が大半の人の身に付いていない実状を根拠に、「訓読のしかたそのものを中高生が学ぶ必要があるのか。」<sup>3</sup>と述べている。そして、漢文に割り当てられた限られた時間の中で、何を重視し何を割愛するのかという点から、教材の優先順位を検討していく。中学校でも高等学校でも漢文の訓読について学習しているにもかかわらず、この学習が単に「漢文訓読法」という技能の習得にばかり偏ったものであり、私たち日本の先人が生み出した訓読法の発明がいかに素晴らしいものであり、それが私たちの考え方の奥底に流れていることを知り得てはいないというのが実態であろう。安東俊六は、「訓読の技術的な学習は止めて、書き下し文を主にした漢文訓読調の古文によって、内容を読み取ることに重点を置くほうが、中学生・高校生にとって遥かに有益ではなかろうか。」<sup>4</sup>と指摘している。確かに、社会に出てから訓読の仕方が役に立ったかと問われれば、「役に立たない」と答える人が大半であろう。しかし現場の率直な感想として、この指摘に対しては大学入試との関係を明らかにする必要があるのではないだろうか。訓読ができなければセンター試験の問題は解けないのである。

次に「中学校の教材との重複」という点に注目していく。実際に中学校の教材と高等学校の教材とには多くの重複が見られる。特に故事成語や漢詩については小学校段階も含めて、何度となく同じ教材を学習することになる。この原因について安東俊六は次のように述べている。

「国語総合」では訓点が付された文、中学校では書き下し文や語のみという少しの違いはあるけれども、これほど多くの重複が見られるというのはどういうことだろうか。このように多くの重複が見られる根本的な原因は、改めて言うまでもなく、中学校においては何をどこまで学ぶべきか、高等学校においては何をどこまで学ぶべきかが、「中学校学習指導要領」にも「高等学校学習指導要領」にも明確に示されていないからである。

(安東 (2005) p.8)

確かに、指導要領中には教材の選定について、おおまかなジャンルの指示や、漢文における訓点を付け、必要に応じて書き下し文を用いるといった表記上の工夫に関する記述は見られるものの、具体的な作品名などは書かれていない。一方で、それらを明示してしまうと、決められた教材だけを教えることとなり、学習者の理解の程度や興味・関心、現在、将来の必要性などを十分に考慮し、内容、表現ともに適切で価値あるものを精選することの自由度を狭めることにつながるのではないだろうか。この問題については、先述の大学入試との関係も含めて井上次夫が、高等学校を中心とする学年と学習段階を対応させた漢

文指導の系統化モデルを示している。

	中 学	高 1	高 2	高 3	大 学
入 門	A	B			
初 級		A	B		
中 級			A	B	
上 級				A	B

【図】漢文指導の系統化モデル

図中のAは導入期、Bは定着期を表す。今、漢文基礎力(=訓読技能)をしっかりと習得すべき高1の箇所をみると、高1は中学における入門期の導入を終えてその定着に入る時期であると同時に、初級段階の導入時期であることを示す。

次に、この試案では学習段階の区分をどのように行っているかの目安について述べる。

- (1) 入門期…古典としての漢文を理解する基礎を養い、漢文に親しむ態度を育てる段階。主に、中学校の国語で扱う。
- (2) 初 級…古典としての漢文を読む基礎力を養い、漢文に対する関心を深める段階。主に高校国語「国語総合」で扱う。
- (3) 中 級…古典としての漢文を読む能力を高め、漢文に親しむことにより人生を豊かにする態度を育てる段階。主に、高校国語「古典」で扱う。
- (4) 上 級…古典としての漢文を読むことにより、生涯にわたって漢文に親しむ態度を育てる段階。主に、高校国語「古典講読」で扱う。

(井上 (2006) p.95)

学習段階区分の科目名については、新要領では「古典」→「古典B」に、「古典講読」→「古典A」に置き換えることができるだろう。何れにせよ、これまで中→高のつながりを意識した6年間の学習計画という観点からは、「古典重視」の新指導要領下においてますます必要となってくる。また、大学入試において、故事や漢詩といった馴染みのある作品ではなく、初めてみるような散文からの出題がほとんどであるという現実からいっても、これを見越して学習を進めることが重要である。このように考えるならば、「中→高」の連携だけでなく「どの教材」を「どの段階」で「どの程度」まで教えるかという視点のもとに「中→高→大」若しくは「小→中→高→大」と、一貫した漢文学習の系統化を進める必要性が考えられる。

井上次夫は、このうち入門期から初級段階における実践的指導法について以下の3点にまとめている。

- 1 学習者のこれまでの漢文学習に対する意識、学習量、学習方法などの実態把握を行うこと。
- 2 「知識（知る）」から「理解（分かる）へ」、「技術（仕方）から「技能（できる）へ」と学習者の習得段階に沿ってレベルを上げること。
- 3 学習者が学習活動の中心となり、活動の個人差が許容されること。

（井上（2006） pp.95-96）

学習者の実態を正確に把握し、それを学習者一人ひとりの修得段階に合わせてレベルを引き上げていくことの重要性は漢文学習において、訓読の方法を学ぶことは、漢文を読み味わうための基礎基本として身に付けなければならないことは言うまでもない。しかし、その指導を重視し過ぎるあまり、多くの古典嫌いを生む要因となったことは、今回の指導要領解説に書かれていたとおりである。加えて、授業の形態が、講義式の知識注入型の授業で、漢文が新しい時代や生徒の考えに即した授業の形態や指導の方法が確立されていないことが古典嫌いの増加に輪をかけているとも言える。これに関しては、先述の佐野泰臣が、昭和 40～50 年当時の漢文授業の現状として次のように述べている。

漢文においては現在でも、黒板とチョークと教科書がありさえすればそれでいい、授業の形態も講義式一辺倒で旧態依然としている。

（佐野（1978） p.144）

このような佐野泰臣による講義型授業に対する警鐘から、四半世紀が経過した現在においても、当時と同じような問題が相変わらず高校教育の現場において存在していることを考えると、私たち指導者側の意識改革が必要ということであろう。

佐野泰臣は講義式授業からの脱却として次の 6 つの授業形態を提案している。

- 1 グループ討議（学習）による指導
- 2 発表方式による指導
- 3 視聴覚機器の利用による指導
- 4 放送教材の利用による指導
- 5 課題学習による指導
- 6 自主ゼミ形式による指導

（佐野（1984） p.27）

入門期に漢文学習の意義を理解した上で、このような生徒主体の授業を行なったとしたならば、多くの漢文嫌いは生まれずに済むのではないか。これを切り口に、実際の授業構想を立てていきたいと考えている。

### 第3項 考察のまとめ

これまでの考察から、現在の漢文学習における問題点に対する改善策として、次の3点にまとめることができる。

- 1 漢文学習の意義と目標の理解と定着
- 2 中高の漢文教材を一貫したものと考えた、教材の再配置
- 3 講義式の授業（教師主導）から、活動式の授業（生徒主体）への転換

筆者はこれまで、様々な校種で教壇に立ち、その学校のレベルに合わせた指導を行ってきた。しかし、学習者一人ひとりが中学で学んだことは勿論、個人の学力や学習意欲、学習のスタイルや興味・関心、それまでの生活経験などの違いまで考え、それを意識して授業全体を考えたことはなかったように思う。特に入門期においては、入試問題が読めるようになるために、就職試験の教養問題が解けるようになるために、教師主体で訓読の方法を徹底して教え込んできた。今後は上記の改善策をいかに実際の授業の場に取り入れていくかを念頭に、学習者が主体となり、一人ひとりが漢文学習に興味を持ち、自ら学ぶ楽しさを体感できるような授業を通して、漢文を学ぶ意義に気付かせるような漢文学習の構想を立てていきたいと考えている。また、学習指導要領では内容の取扱いについて以下のような記述がある。

「国語総合」3 内容の取扱い（4）、「読むこと」に関する配慮事項

- ア 古典を教材とした授業時数と近代以降の文章を教材とした授業時数との割合は、おおむね同等とすることを目安として、生徒の実態に応じて適切に定めること。なお古典における古文と漢文の割合は、一方に偏らないようにすること。（下線部筆者）

（文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』）

現任校の生徒のほとんどが受験する大学入試センター試験において、古文と漢文は同じだけ配点がある。にもかかわらず指導要領中にこのような記述が見られることから、漢文指導が軽視されていることが想像される。わたしたち現場はこのことを常に念頭において学習指導計画を立てるという当然のことを当然に行う必要があるのではないかと。

（注）

- 1 対象となった教科書は以下の通り

①東京書籍『新編国語総合』

⑬明治書院『新 精選国語総合』

- ②東京書籍『精選国語総合』
- ③東京書籍『国語総合 古典編』
- ④三省堂『高等学校 国語総合 改訂版』
- ⑤三省堂『新編国語総合 改訂版』
- ⑥三省堂『明解 国語総合』
- ⑦教育出版『国語総合 改訂版』
- ⑧教育出版『新国語総合 改訂版』
- ⑨大修館書店『新編国語総合 三訂版』
- ⑩大修館書店『国語総合 古典編』
- ⑪大修館書店『国語総合 改訂版』
- ⑫数研出版『国語総合』
- ⑭明治書院『高校生の国語総合』
- ⑮右文書院『国語総合』
- ⑯筑摩書房『精選国語総合 古典編[改訂版]』
- ⑰筑摩書房『国語総合[改訂版]』
- ⑱第一学習社『高等学校 新訂国語総合 古典編』
- ⑲第一学習社『高等学校 改訂版 国語総合』
- ⑳第一学習社『高等学校 改訂版 標準国語総合』
- ㉑第一学習社『高等学校 改訂版 新編国語総合』
- ㉒桐原書店『探求 国語総合（古典編） 改訂版』
- ㉓桐原書店『展開 国語総合 改訂版』
- ㉔桐原書店『発見 国語総合』

- 2 安東俊六（2005）「高等学校における漢文教育の再検討（続）」（『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学』54(1)、pp.1-10）
- 3 2に同じ p. 5
- 4 2に同じ p. 7

〈参考・引用文献〉

- 文部省『中学校高等学校・学習指導要領・国語科編（試案）』（1951年）
- 西尾実・倉澤栄吉・滑川道夫・飛田多喜雄・増淵恒吉編『国語教育辞典』（1957年、朝倉書店）
- 江連隆『漢文教育の理論と実践』（1984年、大修館書店）
- 鎌田正「漢文指導の目標と範囲」（増淵恒吉・三谷栄一・小海永二・新田大作編『高等学校国語科教育研究講座 第十一巻漢文』1974年、有精堂）
- 佐野泰臣『漢文教育考—その指導と実践—』（1978年、教育出版センター）
- 文部科学省『小学校学習指導要領』（2008年 a）
- 文部科学省『中学校学習指導要領』（2008年 b）
- 文部科学省『高等学校学習指導要領』（2009年）
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』（2010年、教育出版）
- 文部科学省『高等学校学習指導要領』（2001年）
- 安東俊六「高等学校における漢文教育の再検討（続）」（『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学』54(1)、2005年）
- 井上次夫「漢文基礎力を付けさせる実践的指導論」（『全国大学国語教育学会発表要旨集』110、2006年）
- 佐野泰臣『〈教え方叢書〉⑫漢文の教え方—指導・実践の方法—』（1984年、右文書院）

# ニュージーランドを訪ねて

地歴公民科 渡辺卓郎

## 1 はじめに

鹿児島県高校地理部会では、数年前より海外巡検を計画していたが、今回 2014 年 12 月 26 日(金)～2015 年 1 月 4 日(日)までニュージーランド、ソウル（飛行機乗り継ぎで二泊）を実施した。

今回の参加は 14 人で、地理の教員は 7 名であった。円安が進行しニュージーランドの季節が真夏で最も旅行費用が高い時期のため、参加費用が一人約 45 万になった。JTBとの折衝で、費用を安く上げるため食事の設定をなくしたが、現地では全てガイドつき、大型バス（45 人乗り）のついた旅行となった。なおガイド不在時には日本人ドライバーが運転し、ガイドは全て日本人であったので国内と変わらない旅行となった。

帰国時は大韓航空機利用のため、鹿児島空港とソウル便の関係でソウル二泊となった。1 日ソウル周辺の観光ができ、これを利用して北朝鮮との 38 度線の国境線を直接みることもできたが、本稿ではニュージーランドのみ記述したい。

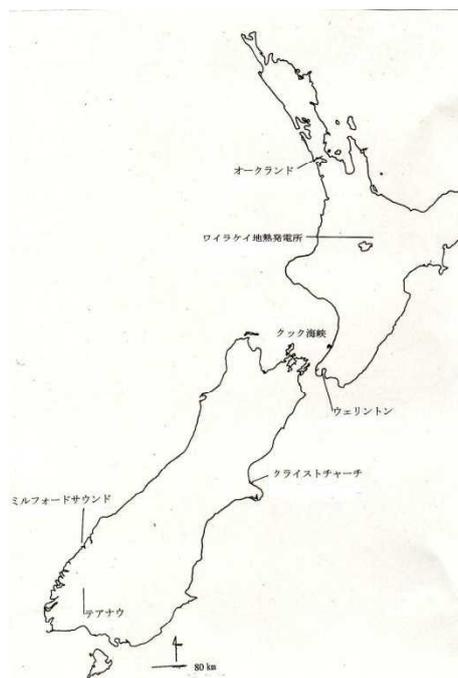


図1 ニュージーランド訪問場所

## 2 旅行日程とニュージーランドの概況

### 1) 旅行日程

- 12月26日(金) 鹿児島空港発(11:30) ソウルインチョン空港着(13:15) 空港発(17:00)
- 27日(土) オークランド空港着(8:10) 空港発(14:15) クィーンズタウン空港着(16:00) バス移動 テアナウ着(19時) テアナウ泊
- 28日(日) テアナウ発(8:00) ミルフォードサウンド着(10:40) クルーズ船観光  
テアナウ着(15時) テアナウ泊
- 29日(月) テアナウ発(8時) クィーンズタウン～クロムウェル～クライストチャーチ着(19時) クライストチャーチ泊
- 30日(火) クライストチャーチ発(7:20) カイコウラ～ブレナム～ピクトン着(12:30)  
フェリー発(13:15) ウェリントン着(16:40) ウェリントン泊
- 31日(水) ウェリントン発(7時) ブルズ～ワイオウル～フォカビレッジ～ワイラケイ～

- ロトルア着 (17:30)    ロトルア泊
- 1月1日(木)    ロトルア発(8:30)    ハントリー～オークランド空港ホテル～イートンクレータ  
ー～オークランド中心街着(16:40)    ～中心街観光～ホテル着(20:30)
- 2日(金)    オークランド空港ホテル発(7:20)    オークランド発(10:15)    ソウルイン  
チョン空港着(17:25)    ソウル市内ホテル着(18:50)
- 3日(土)    ソウル市内観光(午前中:北朝鮮との国境線見学, 午後ソウル中心部散策)
- 4日(日)    ホテル発(9:40)    ソウルインチョン空港発(15:10)    鹿児島空港着(15:15)

## 2) ニュージーランドの概況(データブック オブ・ザ・ワールド(2015年), 二宮書店から)

ニュージーランドの人口は約450万人でこれは福岡県約500万人より少ないが面積は約27万km<sup>2</sup>で、日本の約2/3である。最大都市はオークランド市で約130万人で、首都のウェリントン<sup>\*1</sup>は約20万人である。北島と南島から成り、人口の約2/3は北島にすんでいる。北島は環太平洋造山帯に属し、巨大カルデラなどあり鹿児島県と似た地形になっている。南島はインドオーストラリアプレートに属し、太平洋プレートとすれ違う場所で断層活動のため3000mを超える山脈があり、偏西風で雨の多い西海岸にはフィヨルドなどの氷河地形が発達している。

略歴は9世紀ごろポリネシア文化を受け継いだマオリ人が発見して以降各地に定住した。1642年にはオランダ人タスマンがヨーロッパ人として初渡航。1769年にはイギリス人クックが探検を行った。1840年には先住民族のマオリ人とワイタングイ条約<sup>\*2</sup>が調印され、イギリスの直轄植民地となった。1860年代には金鉱が南島に発見された労働者が流入。1907年英連邦自治領、1947年独立をはたす。民族構成はヨーロッパ系が約7割、マオリ人が約14%、アジア系10%、太平洋系(サモア、トンガ系など)7%である。

経済は輸出の約半分は農産物で、特に酪製品が2割以上の酪農国である。貿易相手国は輸出が中国、輸入がオーストラリアが各1位となっている。また近年では貿易の自由化が進み、映画制作<sup>\*3</sup>・バイオ

---

\*1 1865年までオークランドが首都、それ以後は北島と南島の中間のウェリントンが首都になった。人口はオークランド(149万人)、クライストチャーチ(37万人)、ウェリントン(20万人)となっている。

\*2 マオリ語と英語の条約内容が異なりこの後も紛争は続いた。しかし1960年代以降はマオリも対等の地位に立ち公用語になるなど主権が尊重された。ちなみにニュージーランドの国技としてラグビーがあげられるが、試合前には士気を高めるためマオリの伝統のハカを踊ることで知られる。

\*3 近年ではニュージーランド出身のピータージャクソンが監督したロードオブザリングのロケ地としても知られる。

テクノロジーにも力を入れる。ちなみに在留邦人は総数 13,435 人（長期 5873 人，永住 7562 人）である。

### 3) 事前学習

出発に先立ち，12 月 13 日（土）には，JTB からの説明と同行する森脇教授（鹿児島大）の説明があった。教授からは専門の地形学の立場から「『ニュージーランドの地』－日本との類似性と差違－」ということで詳細な巡検資料と説明があった。この日は参加者全員が集まり，最高齢は 70 歳を超え，最年少でも 30 代後半であり，平均年齢の高い旅行となった。

### 3 各地の印象

#### 1) オークランド空港，クィーンズタウン空港

ニュージーランドの玄関口であるオークランド空港は，市街地から約 20 km 離れたマヌカワハーバーに面したところにある。国際線と国内線は約 1 km 離れていた。国際線では入国時に審査が厳しかった。他国と比べて検疫システムが厳しく，X 線を使って食料品の持込が厳重にチェックされる。違反した場合は罰金が科せられる。実際，旅行者の手荷物やスーツケースを探知犬が職員と巡回・監視していた。これは主な輸出品が農業関連が多いため伝染病や外来動物の侵入を防ぐためである。空港内でニュージーランドドルと円を交換したが，レートはこのとき 1 \$ が約 102.7 円であった。日本の円高時には 80 円の時もあったとの説明を後でうけた。このため 1 \$ 100 円と換算して買い物等したが，結構割高なものが多かった。後日あったガイドさんの話では，パンや乳製品は割安だがその他のものは全て高いとのことであった。特に工業製品は輸入しているので高いものが多い。特に車は日本からの中古車が多いとのことであった。

約 6 時間の乗り換え時間のあと国内線乗り場に移動して，北島から南島に向かう。約 90 分



写真1 オークランド空港 バヌアツなど太平洋の国々へも運行していた。



写真2 クィーンズタウン空港 背後には氷河に削られた山が見える。

のフライト後、着陸地のクイーンズタウン空港は氷河のU字谷を抜けた場所にあった。かなり揺れながら左右に角度を変えながら湖の外れに着陸した。到着した12月27日は、観光シーズンの最中で、ガイドからはこれからの2時間に8機も到着するとのことだった。また中心部からは約8km離れているが、周辺には住宅地も多かった。この町はワカティプ湖に面して立地し、1862年からのゴールドラッシュで発展したが、その後は金を取り尽くし寂れていった。その後は南島の玄関口や観光地として発展し、特にバンジージャンプの発祥地として知られる。

## 2) テアナウ

南島最大の湖テアナウ湖に面した人口約3000人ほど町である。夏にはここからミルフォードサウンドやフィヨルランド国立公園の入口にあたるため観光客や登山客で賑わう。メインストリートに沿って飲食店やお土産屋、スーパーなどもあり便利な町であった。

この町では2泊したが、朝は15℃程度と寒く、日中も20度前後で涼しかった。高地にあることと緯度が南緯46度(日本では北海道の稚内と同じ)で涼しかった。日の出もサマータイム(夏の時間を有効活用のため1時間進める)

ながら4時半で、日没は21時前後であった。服装も朝方は寒くて長袖と上着が必要であった。



写真3 テ・アナウ湖畔の遊歩道 湖の成因は氷河湖で、遠方の山には残雪が見えた。

## 3) ミルフォードサウンズ

ミルフォードサウンズは、ユネスコの世界遺産テ・ワヒポウナムの中に位置するフィヨルドである。

フィヨルドとは氷河によって削られた谷がその後水没したものである。ここでは海からそそり立つ山の高さとしては世界一の高さを誇るマイターピーク(1694m)もみられる。

当日は8時にテ・アナウを出発し、途中氷河地形をみながら、11時出航のクルーズ船に乗ることができた。雨が250日以上年降水量が1万

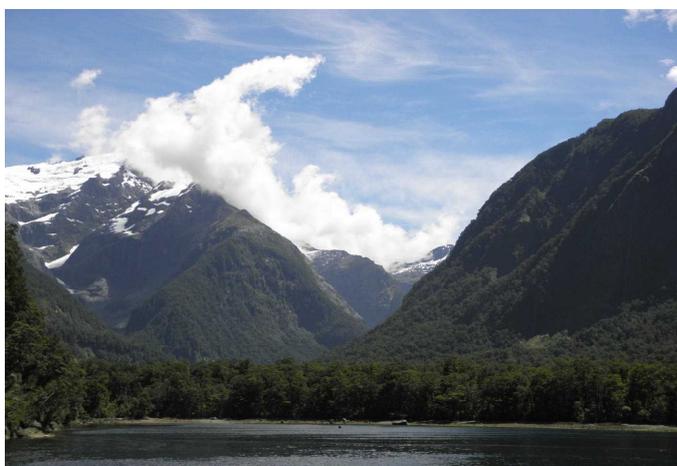


写真4 ミルフォードサウンズ 成因は氷河に侵食されたU字谷に海水が侵入したものでフィヨルドと呼ばれる。

ミリを超えるところであったが当日は晴れていた。湾内は静かであり、途中の岩場にはオットセイがいるなど自然も豊かで、スターリング滝（高さ 146 m）も近くまで接近できた。途中にはかつての銅の採掘現場もあったが、時には台風なみの風速 40 mを超えることもあり短い期間でおわり、現在では足場などしか見ることはできなかった。

クルーズは約 3 時間で終わり、その後は氷河地形を見学しながら写真を撮っていた。ただニューランドは直線では 100 km 出せるので、道路を横断するには十分な確認が必要であった。また大きな U 字谷の中にあるモレーン構成物（氷河の末端にできる地形）が大きな岩と土であることも確認できた。

#### 4) クライストチャーチから北島へ

クライストチャーチは 2011 年 2 月に大地震が発生し、日本人の留学生を含むも多く死傷者が出たことでも知られている。現地には夕方到着して、8 時出発だったのであまり市内をみることはできなかったが、地震の影響は至る所に見られた。中心部のホテルに宿泊したが、近くの大聖堂は崩壊し立入禁止になっていた。町の地形は、浅い海をエイボン川からもたらされた土砂で形成された土地であった。海岸部の浅い湖があった場所の被害が大きかったが、地盤の固い中心部でも建物によっては、基礎にひびが入り、使用禁止になっているものがみられた。壊れた大聖堂の仮設として、日本人建築家坂茂氏が設計し、柱等が防水加工した紙管でできたカードボードカセドラルも有名である。



写真 5 大聖堂近くに宿泊したホテルはあった。隣接地は空き地で、道路も補修してあった。

クライストチャーチの出発は 7 時 30 分の予定であったので、朝の散歩を楽しんで 6 時 30 分にホテルに戻ると、日本人の添乗員・運転手が来ていて「予定では 6 時半出発です。早くみんなロビーに下りてきてください」といわれ、慌てて各部屋に連絡をとった。パンフレットには変更は書いてなかったが、予約チケットにはそのように書いてあったらしい。結局は全員がそろったのは 7 時 20 分であった。



その後は陸路で南島のフェリー乗り場があるピクトンまで、出発時間を気にしながらか

写真 6 カーフェリーでクック海峡を横断する。

ら南島の海岸線を北上した。この区間は山脈が偏西風を遮るので適度に乾燥しており、ブドウ栽培が盛んで、近年は世界的コンクールに入賞するワインセラーもあるとのことだったが、ニュージーランドもニューイヤー休暇に入り工場見学はできなかったが、車窓から見学することはできた。またカイコウラの近くでは、海流の関係で霧が多い場所だが、オットセイが海岸の岩場にたくさんいるのを見ることができた。

フェリー乗り場のピクトンでニューイヤー休暇で満杯のカーフェリーに乗船して、南緯 40 度を超え北島に向かった。南島と北島の間には強風で知られるクック海峡があるが、旅の前半は南島北部のリアス海岸を通り穏やかな旅であった。外洋に出ると波は荒くなったが、約 3 万トンの船で波の影響を感じずに約 3 時間でウェリントンに到着した。

## 5) ウェリントン

ニュージーランドの首都はウェリントンであるが、もともとはオークランドにあり、1865 年に移された。それ以降政治・経済の中心として発展してきた。特に南島からのフェリーはこの港を利用している。

北島の主要地形景観は火山であり、基本的にはプレートが狭まる変動帯に位置するので火山・地震帯になっている。ウェリントンも有名な活断層が走っており、1855 年には近くでマグニチュード 8.2 と推計される巨大地震が発生して



写真7 マウンドビクトリアの中腹からウェリントン市街地の景観

いる。そのため周辺は小高い丘に囲まれている。宿舎となったメルキュールホテルもバスは 3 階に横付けされフロントもここにあったが、中心街に近い出口は 1 階にあった。

ホテルから有志で、展望台まで歩くことになった。同行者のなかで森脇教授が地形解説をしながら、標高 196 m のマウンドビクトリア展望台に約 1 時間かけて到着した。市街地が大きな地溝帯の上にあることを観察できた。帰りも歩いて中心街まで行き、夕食をとって帰った。南島と違い人種も多様で、歩行者も多い町であった。ちなみに今年定年退職される教授が一番元気に先頭を歩いていたことを付け加えたい。

## 6) ワイラケイ地熱発電所とロトアル

ウェリントンからはトンガリロ国立公園を經由してロトアルに向かった。同公園は北島の最高峰 2,797 m をはじめ 2000 m 級の火山がそびえている。当日は山頂が雲がかかってよく見えなかったが、雄大な

火山地形を見学することができた。

ワイラケイ地熱発電所はタウポ火山帯に属し、北島で最も大きな火山帯であり、大きなカルデラがいくつもあり、そのうちの一つはニュージーランド最大のタウポ湖を形成している。この湖の北東部にワイラケイ地熱発電所がある。

同発電所は世界で 2 番に古く 1958 年に建設された地熱発電所で、地理の教科書に必ず登場するほど有名な場所である。ニュージーランドの電力の約 1 割を発電しており、現地のボランティアの方に案内してもらった。発電方法は地下に井戸を掘り、地熱で熱せられた高压水を蒸気と水に分離して、蒸気を発電に使い、残りは冷却して別の井戸から地下へ還元している。また近年では熱水を低温で利用するバイナリー発電がイスラエルの技術で導入された。ニュージーランドは 1984 年以降規制改革と国営企業の民営化が進み、この発電所も 1989 年民営化され、約 160 人が働いているとのことであった。

ちなみに電力の構成割合は水力が約 55 %、火力が約 30 %で残りが地熱・風力になっている。近年は天水に頼る農業からポンプで散水して、牧草地や畑地の生産性を上げる農業が盛んである。ガイドの説明によると酪製品の世界的な需要増加から、牧草地に散水して牧草を増産し、飼料をあたえ牛乳の生産量を増やしている。

このため電気需要<sup>\*4</sup>は拡大中とのことだった。 写真 9 テ・プイア 間欠泉から熱水が吹き出る

ロトアルの町は 14 万前に巨大噴火したロトアルカルデラの中にあり、町の中は硫黄のにおいが立ちこめ、周辺にも温泉が多い



写真 8 ワイラケイ地熱発電所 熱水を運ぶパイプライン網



写真 9 テ・プイア 間欠泉から熱水が吹き出る

\*4 電力生産量は 2013 年と 14 年を比較すると 435 億 kwh から 458 億 k w h に増えている。バターは 2011 年統計によると 48.9 万トﾝ生産され、そのうち 28 万トﾝが輸出され、世界の輸出市場の約 2 割を占める。

郊外のテ・ピアは間欠泉があることで有名である。敷地内にはマオリ文化を伝承するために工房なども併設され伝統的な家屋や木彫りのカヌーなど見学することができた。

### 7) オークランド

オークランドは周辺の市町村と合併し、中心部だと約 45 万人だが、周辺市町村を加えると全体で約 130 万人を超える規模になっている。地形的にはスコリア丘、マール、タフリングと呼ばれる単成火山からなる地区で、周辺には約 50 もの火山が見られる。マウントイーデンは市街の中で最も高い円錐火山で約 1 万 5 千年前噴火した。観光客も多く、頂上には見事な噴気口が見られた。中心街近くのバスティオン・ポイント



写真 10 オークランド市街地 ランドマークのスカイタワーが見える

対岸には西暦約 1500 年に噴火したランギトト島が盾状火山の姿を見せてくれた。またオークランドは別名「City of Sails (帆の町)」といわれるほど 1 人あたりのボート保有数世界一を誇る。ガイドの説明によれば各世帯の約 3 割はもっているとのことであった。中心部のすぐそばにマリーナもありたくさんのヨットを見ることができた。また町中もマオリ系やアジア系が多く、タクシーの運転手も中国系であった。

### 3 あとがきにかえて

旅行日程は日本の面積の 3 分の 2 のところを南島から北島まで、6 日間で約 1000 km バスで北上していった。このためメインの観光地以外は、時間に追われかけ駆け抜けた印象が強い。今回の旅行で一番感動したことは、雄大な地形と合理的なニュージーランドの生活であった。

とくに交通面では、郊外は全て 100 km/時で走行できるが市街地は 30 km/時の制限だが、信号はほとんどない。円形のロータリーで左折を繰り返して、各車とも運転している。また歩行者がいると必ず停止してくれる。また店のレジも何列もあるが順番がくるまで一列に並ぶなどマナーはよかった。さらに治安もよく南島にいる日本人ガイドさんは、家に鍵をかけたことがないと言っていた。もちろん観光客など増えると注意は必要になるそうだが…。また野外活動が盛んで、ボートが各家庭にあたりトレッキングも整備されたコースが多く盛んであった。

真夏のニュージーランド旅行と考えると、夏の服装で現地に行ったら朝晩はかなり寒くて、10 °C 前後になることもあった。日中は 25 °C を超えることもあったが湿度が低くて快適であった。もちろん紫外

線は強く、帰国したらかなり日焼けしていた。

また全ての食事を自分たちで選んで食べることができたので、朝食や昼食はスーパーで買ったパンなどと副食で済ましていた。酪農国らしく乳製品やハム類、パンはかなり安かったが、それ以外の果物、カップ麺などは日本とほとんど同じ値段で販売していた。夕食はアルコールを軽く飲んで、日本の居酒屋程度の価格で済ませた。メインの肉料理などは日本の 1.5 倍の量はあった。このため体調や店の雰囲気などからイタリアンや中華料理なども利用した。

参加者の半分以上が自分より年齢は上であったが、参加者全員が行動力旺盛な人ばかりで楽しい旅行になった。また幹事として、旅行中はコーディネータとして苦勞された志學館高校の矢野先生と、旅行中の自然環境の解説を一手に引き受けて、我々のつまらない質問にも真摯に回答された森脇教授には感謝の念がつかることがない。



余談であるが森脇教授の鹿児島大学定年記念の最終講義に参加することができた。論題は「地理学概説―大地系を考える」であった。大地系（ジオシステム）とは、地球上の様々な諸現象を自然現象や人文現象などと相互に

写真 11 ヒッチハイクも車が 100 km で走行しているの  
でなかなか止まってくれない。背景の山は北島で最も  
標高の高いルアペク山 (2797 m)

関連づけることであり、それには研究方法となる基礎(フレーム)が重要であることが強調されていた。講義では地理の本質論に触れることができ、今回のニュージーランド巡検を思い起こせば、南半球の異なる国ではあったが、事前説明や現地での解説で地理的に理解することができた。特に本や映像でしか見ることができなかった氷河地形と、ニュージーランドの生活を体験できたことが一番の財産となった。

#### 参考文献

菊池敏夫・小田宏信編 2014. 世界地誌シリーズ7 東南アジア・オセアニア 朝倉書店

森脇 広 2014. ニュージーランドの地誌―日本との類似性と差異― 鹿児島県高校地理部会ニュージーランド巡検資料

わがまま歩き㊸「ニュージーランド」 2013 ブルーガイド編集部

2015 データブックオブ・ザ・ワールド 2015 二宮書店

# 新課程における地学基礎の実験について

理科 実習助手 山口 真理子

## 1. はじめに

新課程に移行し、旧課程において地学が実施されていなかった学校でも「地学基礎」が実施されるようになった。本校でも1年次において地学基礎を必修としており、3学年の文系選択教科としても履修されている。地学は、これまで中学校の理科2分野にて学習していたが、身に付いていない生徒も多く見られた。地学基礎を受験に実際に使用する生徒は少ないが、身近な現象について学習することも多い科目である。そのため、知っておくべき『知識』として学習して欲しい。

多くの学校では、専門外の先生が地学を教えている場合が多く、本校もそれに該当する。そのため、簡単な演示実験や生徒実験にてより互いに「地学」について理解を深めることが出来る様な実験を書籍やインターネット上から収集し、実際に実施した。

今回は、その中からいくつか実施した実験を紹介する。

## 2. 演示実験

演示実験は、生徒の理解を深める上で必要である。市販されている模型などをいくつか購入して見せることも効果的だが、高額な模型や装置も多い。今回は身近なものや比較的安価な材料等を使用した実験について述べる。

### ①液状化による浮き上がり現象の実験

近年、地震が頻繁に起こるようになり、身近な災害になりつつある。地震による現象の一つとして液状化現象がある。ニュースなどで耳にしたことがある生徒も多いだろう。しかし、原理を理解している生徒はあまりいない。今後も地震の発生が危ぶまれるため、地震における情報をより理解する必要がある。

液状化現象とは、地震動による水圧の上昇で砂層に割れ目が生じ、地下水と砂が地表に噴出することである。また、水分を多く含む地層では、振動によって砂層の砂粒子間の結合が外れ圧力が高くなり、砂粒子が水中に浮遊することもある。そのため、地盤が強度を失って重い建物が沈下し、中身が空洞の軽いものが浮き上がる。

この実験は、液状化現象における地中のコンクリート管などが飛び出す浮き上がり現象を再現する実験である。

### ①-1：準備するもの

ペットボトル、水、砂、マップピン

※砂は、校庭の砂が良い。

マップピン以外のものでも作成してみたが、動きが悪く失敗することが多いため、マップピンを使用することを推奨する。マップピン使用時は、高確率で成功する。

### ①-2：実験装置の作成

(1) ペットボトルに厚さ5cm程度になるように砂を入れ、水をペットボトルに入れる。

※砂が沈んだ後もペットボトル内の水が濁るようであれば、中が見やすくなるまで何度か水を入れ替える。ペットボトルの口まで水を入れる（若干空気が入っても良い）。

(2) ペットボトルの中に、マップピンを2～3個入れる。

※なるべくカラフルな色合いのものを入れると分かりやすい。

(3) ペットボトルの口をしっかりと閉める。

※逆さまにしたりするので、水が零れないようにする。

### ①-3：実験内容（図1）①-2にて事前に作成した装置を授業にて用いる。

(1) 実験装置をひっくり返して、内部の砂を攪拌する。

(2) 装置を元の状態に戻し、中のマップピンが砂中に完全に埋もれていることを確認する。

※この時、生徒に装置内部の砂の上になにも飛び出ていないことを確認させる。

(3) 装置上部を軽く叩き、振動させる。

※4～5回程度で良い。あまり振動させすぎないように注意する。

激しく振動させると、マップピン上の砂がどかさただけだと思われてしまう。

(4) 砂中のマップピンが砂上に出現することを確認させる。

(5) 浮き上がり現象による実際の被害の様子などを教科書や映像などで見せ、マップピンが地中のコンクリート管などを示すと説明する。説明後、もう一度やってみても良いだろう。

### ▼図1：浮き上がり現象実験手順



### ①-4：生徒の反応、使用した教員の感想

- ・500mL ペットボトルを使用したため、遠くの生徒は見えづらそうだった。次回は2L ペットボトルを使用した実験装置の制作を検討する。
- ・使用するペットボトルは、炭酸飲料のものを使用した方が凹凸が少なく見やすいのではないかな。

## ②ペットボトルで雲を作る

雲は、私たちが目にする機会が非常に多い。誰しも一度は雲の発生過程を疑問に思ったことがあるだろう。そのため、生徒の興味関心を持ちやすいと考えられる。

雲は、水蒸気を含む空気が上昇した際、気圧の低下による空気の膨張で気温が下がるため、空気中に含みきれなくなった水分が空気中の塵やゴミを核として集まり、形成される。

この実験はペットボトルなど身近な材料のみを使用し、比較的短時間で実施出来る実験である。そのため、気軽に生徒たちに制作過程から見せることが可能である。

### ②-1：準備するもの

ペットボトル（炭酸飲料用）、炭酸キーパー、水、線香、マッチ（チャッカマン）、灰皿

※圧力が変化すれば良いので炭酸キーパーはなくても雲を発生させることは可能である。

化学や物理の実験などで使用する簡易真空器でも実施出来る。

### ②-2：実験内容（図2）

(1) 水をペットボトル内に少量入れる。

(2) ペットボトル内に線香の煙を入れる。

※線香の煙でペットボトル内が真っ白にならないように注意する。

この線香の煙が、雲の核となる空気中の塵の役割をする。

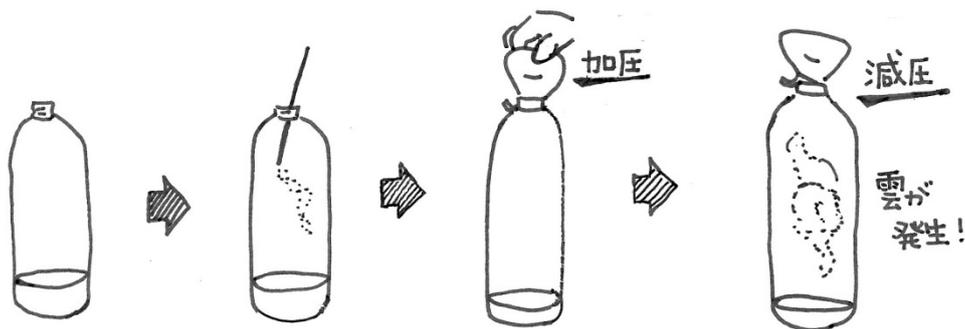
(3) 炭酸キーパーをペットボトルの口に装着し、しっかり閉め、加圧を開始する。

※限界まで加圧する（炭酸キーパーを押せなくなるまで）。

(4) 炭酸キーパーの蓋を開け、一気に減圧すると雲が発生する。

☆炭酸キーパーを使用しない場合、ペットボトルの口を閉め、ペットボトル側面を押して凹まし、急に緩めると雲が発生する（1～2までの課程は同じ）。

### ▼図2：雲の発生実験手順



### ②-3：生徒の反応、使用した教員の感想

・雲の発生時間が一瞬なので、雲をしっかりと確認できなかった生徒もいるのではないだろうか。

### 3. 生徒実験

生徒実験は演示実験同様、理解を深めることが目的だが、生徒たちが実際に作業することにより興味を持たせることができる。

#### ①岩石プレパラートの観察（実験プリント①）

火山分野において、深成岩の『等粒状組織』や火山岩の『斑状組織』の図は、教科書や資料集などに必ず掲載されている。問題として出題されることも多々あるため、岩石の組織を実際に観察するとより知識が定着するのではないかと考えられる。

今回の観察では、鉱物顕微鏡（偏光顕微鏡）ではなく、生物顕微鏡を使用する。鉱物顕微鏡（偏光顕微鏡）は高価であり、地学を履修していない学校では置いていないことが多い。しかし、生物顕微鏡は大抵の学校に生徒のクラス人数分配置されている。更に、生物顕微鏡は中学校で使用経験がある生徒も多く、生物の復習としても使用できる。また、目に見える形で偏光板を設置するため、偏光板の仕組みを説明することも出来る。岩石プレパラートは、生物プレパラートに比べて高額だが、教科の消耗品で購入できない金額ではないため購入可能である。

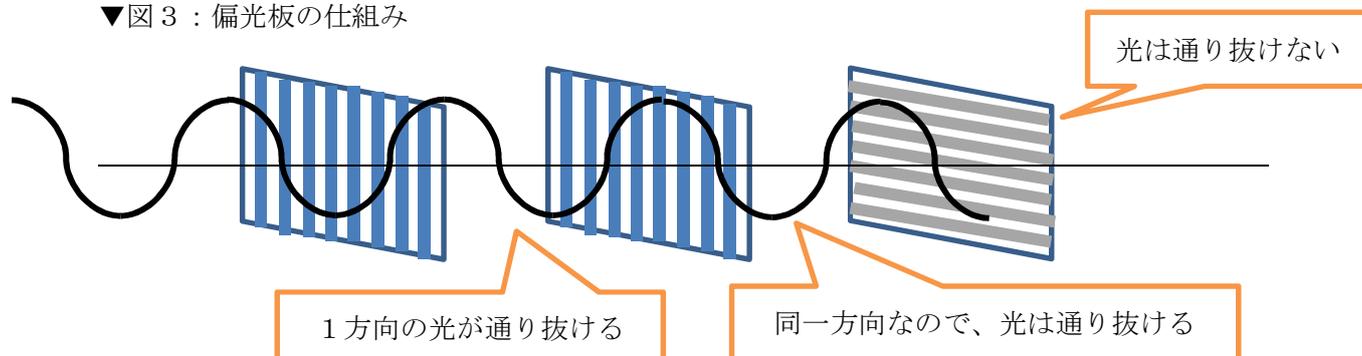
#### ①-1：準備するもの

岩石薄片（火成岩・深成岩）、偏光板2枚、定規（透明なもの）、生物顕微鏡（光学顕微鏡）

#### ①-2：実習内容

- （1）ステージに透明な定規を乗せて、ピントを合わせ、目盛をスケッチする。  
スケッチを元に視野の広さをプリントに記入する。
- （2）岩石プレパラートを2枚の偏光板で挟む。  
※この時、偏光板の向きを光が通らない方向に重ねる（図3）。
- （3）（2）をステージに乗せ、観察する。
- （4）深成岩、火山岩のスケッチをする。時間に余裕がある場合は、他の鉱物も観察する。  
※利き手の方の目でスケッチをしながら、逆の方の目で顕微鏡を見る姿勢をとる。  
最初は慣れないが、単眼の顕微鏡の基本観察方法なので実施させる（図4-1）。

#### ▼図3：偏光板の仕組み



偏光板＝一方向に振動している光のみを取り出すことが出来る透過軸を備えた板

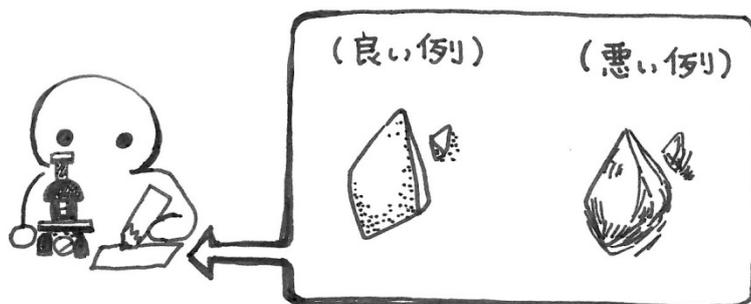
透過軸が同一方向になるように偏光板を2枚重ねた場合、

そのまま光は通り抜けるが、透過軸が直角するように重ねると光は通り抜けない。

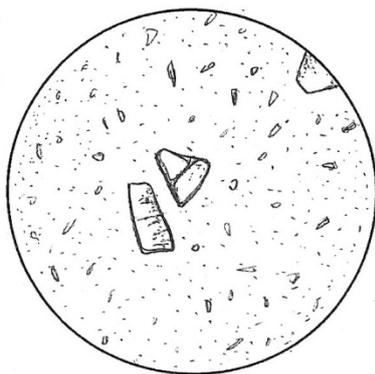
①-3：説明補足・注意点

- ・使用する顕微鏡は生物顕微鏡だが、観察するプレパラートは岩石プレパラートなので、接眼レンズ、対物レンズは共に最も倍率が低いもののみを使用する。岩石プレパラートは、生物プレパラートのように細胞の細部の観察ではなく、組織全体の観察をするため、高倍率で観察する必要は無い。また、光の透過性も生物プレパラートほど良くないため、高倍率のレンズを使用すると視界が暗く観察しづらい。
- ・偏光の説明をする際、あらかじめ生徒に2枚の偏光板を配っておき、目の前で回転させると分かりやすい。時間に余裕がある場合は、無色鉱物の鑑定の方法として干渉色の説明をするとうまい。その場合、岩石プレパラートを回転させて色の変化を観察させる。
- ・顕微鏡のスケッチの仕方を実施させる。今後、生物実験も同様の方法なので、しっかりと身につけさせる。顕微鏡スケッチの描き方は、主に輪郭は線一本で書き、美術のスケッチのような書き方はしない。黒い部分や色の濃淡は、点描で表現する。(図4-1. 2)

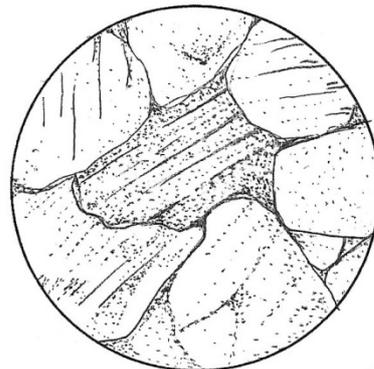
▼図4-1：スケッチの仕方



▼図4-2：火成岩のスケッチ例



▲火山岩（斑状組織）



▲深成岩（等粒状組織）

#### ①-4：生徒の反応

火成岩の顕微鏡写真は、教科書や問題集に載っているため覚えている生徒は多い。しかし、無色鉱物を多く含む岩石プレパラートは、そのままの状態では教科書の通りの構造が見えないため、偏光板をセットすると見え方が劇的に変化することに驚く生徒もいた。

生徒たちは、中学の時に顕微鏡について学習していたため、顕微鏡の部位の名称を答えることは出来た。しかし、実際に顕微鏡の操作をさせると、光量の調節やピントの調整などが出来ない生徒が多かった。2年次の生物基礎では、プレパラート作成と顕微鏡観察を1時間のうちにするため、顕微鏡の操作に余り時間を掛けられない。そのため、次年度の実験の予習としても今回の実験は効果的であったと思われる。

#### ①-5：今後の改善点

- ・ 岩石プレパラートの種類や数が十分ではないため、徐々に数を増やしていく。
- ・ 岩石プレパラートだけではなく、岩石標本と併せて観察すればより効果的な学習になるのではないと思われる。
- ・ 火成岩だけではなく、堆積岩や変成岩なども顕微鏡で観察し、構造の違いを実感することが出来れば良い。
- ・ 鉱物の消光や干渉色の変化を観察できれば、鉱物の鑑定が可能である。しかし、偏光板でプレパラートを挟んだ状態でプレパラートのみを回転させることは難しい。そのため、回転するステージを作成できればより深い学習が出来るだろう。

▼実験プリント①-1：岩石プレパラートの観察

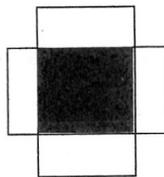
(地球惑星科学実習帳～埼玉から地学 改訂)

偏光による岩石薄片の観察

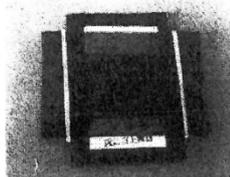
- ① 薄片を2枚の偏光板ではさむ。このとき、下図のAのように光が通る方向でなく、Bのように光が通らない方向に2枚を重ねる。
- ② Bの状態にしてその間に薄片を挟み、輪ゴムで止める(C)
- ③ ステージに透明な定規を載せ、1mmの目盛りの間隔を顕微鏡で観察し、スケッチする。
- ④ Cをステージに載せ、生物顕微鏡で観察する。



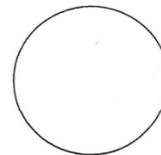
A



B



C



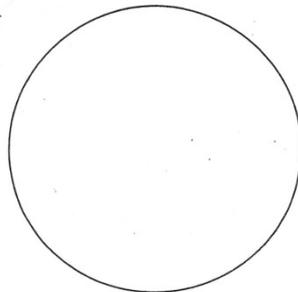
1mmの目盛りのスケッチ  
視野の直径は\_\_\_\_\_mm

- 1 火山岩および深成岩はどのように見えたか、スケッチしなさい。

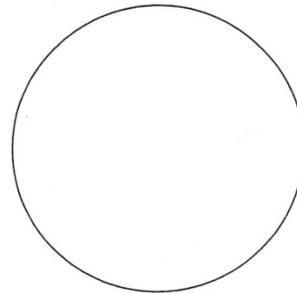
※ スケッチのポイント

- ・ 視野全体を描くのではなく、特徴がよくわかる部分をていねいに描く。
- ・ 鉱物の形がわかるように、輪郭をしっかりと描く。
- ・ 鉱物どうしの接し方がわかるように描く
- ・ 鉱物どうしが接していない場合、その間はどうかっているか。

火山岩



深成岩



- 2 ① 火山岩の組織の特徴を書きなさい。

- 3 深成岩の組織の特徴を書きなさい。

- ② 班晶の大きさはどのくらいか。

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_



## 4. 今後、実施を検討している実験

今年度、実験計画を立てたが実施までには至らなかった実験を挙げる。来年度に実施できるように現在検討中である。

### ①歩いて測量

「地球」について学ぶ上で、地球の大きさは欠かせない。地球の全周を最初に求めた者は、エラトステネス（紀元前275～195頃）である。エラトステネスは、緯度1度間の長さを360倍して地球の全周を推定した。その結果、現在の値と大差ない値を求めている。精密な日本地図の作成で知られる伊能忠敬も緯度1度間の距離を測定している。この時に測量した緯度1度間の距離が現代で求めた値と誤差約200mとかなりの精密さを誇っている。

伊能忠敬の用いた測量方法は、最も基本的な1歩の距離の積み重ねである。つまり、自分の歩幅を知り、歩測によって2地点間の距離を求めたのである。今回の実験は、伊能忠敬が用いた方法とほぼ同じ『歩測による測量』によって実際に地図を作成することが目的である。

#### ①-1：準備するもの

50m巻き尺、方眼紙、クリノメーター（方位磁針）、定規

#### ①-2：実験内容

(1) 自分の1歩の長さを知るために、20mを何歩で歩くかを数える。

※歩く際は、意識せずあくまで自然に歩く。5回程行い、歩数の平均を求める。

(2) 20mを歩数の平均で割って、1歩の長さを求める。

(3) 木と木の間など2点間の長さを実際に歩いて測量する。

※実際に教員が巻き尺で長さを測って正解を発表し、誤差が何%か求める。

(4) 実際に校舎の長さを歩いて測り、方眼紙に作図する。

※方眼紙の上位を北とし、クリノメーター（または方位磁針）で歩く方向（前方）の方位を。

その後歩いて距離を測定する。この場合、1cm=1mなど縮尺を予め決めておく必要がある。

#### ①-3：注意事項

- ・1歩の長さを測る際、ビニールテープなどでスタートとゴールの位置を明確にしておく（横一列に並んで複数で同時に測定できる。（隣の人の歩幅につられないように気を付ける）

#### ①-4：実際に実施するための検討事項

- ・授業で実施する場合、①-2（3）の自分の歩幅を使って2点間の距離を求めるだけでも十分だと思われるが、実際に道や校舎等の距離を測り、作図することが出来ればより
- ・校舎の地図を作成するために使用する道具は、方位磁針でも不可能ではないが、クリノメーターを使用した方がより作図がしやすい。しかし、本校にはクラス人数分のクリノメーターの数がない。そのため1年次の必修の授業時に実施する場合はクリノメーターの数を揃える必要がある。現存のクリノメーターの個数では、3年次の選択教科のみの実施となると思われる。

## ②実体顕微鏡による校庭の砂に含まれる鉱物の観察

地学基礎では、鉱物について余り詳しく掲載されていない。鉱物は、主に火成岩などの岩石を構成する造岩鉱物として登場することが多い。無色鉱物や有色鉱物の違いを、実物を実際に観察することで、より知識が定着すると考えられる。鉱物は、火成岩などの岩石にのみ含まれているわけではなく、校庭の砂など身近見ることが出来ることを知ることによって地質分野に興味をもつ切欠になれば良い。

### ②-1：準備するもの

蒸発皿、ろ紙、校庭の砂、実体顕微鏡

### ②-2：実験内容

- (1) 校庭の砂を蒸発皿にひとつまみほど入れて、水で洗う。
- (2) 洗った上澄みを捨て、2～3回ほど砂を洗う。
- (3) ろ紙の上に残った砂を軽く押しつけ、水気を切る。
- (4) 実体顕微鏡で観察し、スケッチをする。

### ②-3：注意点

- ・スケッチの仕方は、生徒実験①の顕微鏡観察の場合と同様に行う（図4-1）。
- ・校庭の砂を洗う際、鉱物を流してしまわないように気を付ける。

### ②-4：実際に実施するための検討事項

- ・光学顕微鏡を使用したことがある生徒は多いが、実体顕微鏡を使用したことがある生徒は少ない。そのため、使い方や各部名称のプリントを作成する必要があると思われる。
- ・校庭の砂を洗う際、水道の流しを大人数で使用すると排水溝に泥が詰まる可能性があるため、バケツ等に洗った上澄みを捨てた方が良いと思われる。しかし、その後の排水処理や必要なバケツの数などは検討すべき点である。

## 5. おわりに

以上が、今年度本校で地学基礎にて実施した実験の一部である。地学は分野が多岐にわたるため、分野毎に最低1つの生徒実験を実施することが理想である。今後は、今年度実験をほとんど実施できなかった海洋や宇宙の実験を中心に情報を収集し、実際に授業で実施出来る様にしたい。

## 6. 引用文献

- 『地球惑星科学実習帳～埼玉から地学』埼玉県高等学校理化研究会 地学研究委員会 HP  
『NGK ウォーターラボ ～水のふしぎの実験室～』日本ガイシ HP  
『教材を探そう～指導案付き活動教材』JAXA 宇宙教育センターHP  
『地学基礎』数研出版、『地学基礎』東京書籍

## 私的・史的・考古学の楽しみについて～幻のツタンカーメン王に魅せられて～

養護教諭 中 島 みどり

古代エジプトの秘宝、ツタンカーメン王の「黄金のマスク」を初めて見たのは、今から50年前の1965年（昭和40年）12月、私が中学校3年生の時であった。

20世紀最大の考古学的大発見であり、人類の貴重な遺産とまで言われたツタンカーメン王の「黄金のマスク」が、エジプト国外で公開されたのは日本が最初である。

それまで門外不出とされていた秘宝が、遠い日本において実現したのは、当時のナセル大統領をはじめ日本とエジプト（アラブ連合共和国）両国の多大な熱意と尽力によるものであった。

この秘宝展は、8月21日から12月26日にかけて東京、京都、福岡の3カ所において順次開催された。主催者は、東京国立博物館・京都市・朝日新聞社であり、後援はアラブ連合大使館・外務省・文部省であった。開催に先立ち、朝日新聞社が全面的支援の一環として、毎日特集記事を掲載していた。それはメインの「黄金のマスク」から始まり、小さな指輪等に至るまでの宝物の紹介であり、写真とそれについての解説で、私はその新聞記事を読むことを毎日とても楽しみにしていた。

九州では福岡県文化会館で公開されると知った私は、どうしても見たくてたまらなかった。丁度その頃、中学校の美術担当の先生がその秘宝展を見に行かれることを聞いた私と友達2人は、早速両親の承諾を得た上で、先生にお願いして一緒に連れて行って頂いた。

志布志駅から夜行列車に乗って、博多駅に到着したのは、雪がちらつく早朝であった。開館を待つ数時間は、寒さに震えながらも、この眼で本物のツタンカーメン王の「黄金のマスク」を観る喜びで、皆興奮していた。今では、鹿児島から博多まで新幹線を利用したら短時間で行けるようになったが、当時はSL列車で土曜日の夜に出発して、日曜日観覧を終えたら直ちに帰鹿するという強行日程であった。

会場前の大広場は長蛇の列で、係員から観覧時は、絶対に立ち止まってはいけないという厳重な注意の下、やっと入場ができた。それは、秘宝展が予想以上に大人気で、大盛況であったからだ。当時は一般庶民にとって、外国旅行など夢のまた夢、高嶺の花であった時代、それ故、各地で熱狂的にツタンカーメン王の「黄金のマスク」は迎えられ、遠いエジプトから遥々やって来た人類の貴重な文化遺産を一目見ようと連日観客が押し寄せた。大きな黄金のベッドから、小さな刻印のある指輪まで、展示されていた宝物はどれもみな素晴らしい物であったが、なんとと言っても、中央のガラスケースに納められていた

「黄金のマスク」は圧巻であった。私は感動のあまり声も出ないまま、ただ見つめていた。

マスクの胸飾りの貴石は、さすがにくすんだ色調に変化していたが、18歳の若さで早世したと言われているツタンカーメン王の肖像は、3300年以上も遙昔に作られたものとは、到底信じられない位、極めて精巧に作られていた。エジプト独特の眉と目許は、瑠璃色のラピスラズリで象嵌された、少年王の頬は文字どおり黄金色に光り輝いていた。

冥界において、王に代わって労働するというウシャブティは、金色で首飾りと腕輪が描かれ、身体には「死者の書」の一節と王名がヒエログリフ（聖刻絵文字）で書かれていた。王のミイラを型取ったとされる木製のウシャブティの愛らしい姿は、つい日本のこけし人形を連想した。

内蔵箱の内蓋（中栓）は、眉と眼が黒く描かれ、唇には鮮やかな紅を差しただけの王の胸像で、それは乳白色の美しいアラバスター（雪花石膏）で作られていた。また、その下に納められていた内蔵入れの容器は、通常は壺型であるのだが、ツタンカーメン王の容器は人型の黄金製小棺である。それは黄金の棺のミニチュアで、この小棺にも、額には王者の印の秃鷲とコブラがついたメネス（頭巾）を被り、胸に交差した両腕には、儀式用のからざおと杖を握った王の顔があった。

アラバスター製の王の胸像と、この黄金の内蔵入れの小棺を見た時、私は子供心に、その顔が黄金のマスクの顔とは少し違うように思ったが、何しろ数千年前の作品だからと無理に納得していた。

その時から違和感は、ずっと私の心の片隅にあったのだが、2000年グレーム・フィリップス著作「消されたファラオ ―エジプト・ミステリーツアー―」を読んで、やっと長い間の疑問が解けると共に、新たな考古学的な謎と疑問に突き当たることになった。

1820年代にイギリスの探検家ウィルキンソンが、廃墟となったアマルナを発見した。その後1891年に、イギリスのエジプト考古学の父と呼ばれたサーF・ピートリによって、この都が古代エジプト史上、唯一神を信仰したアメンホテプ4世の遺跡だと分かった。BC1400年頃、第18王朝のアメンホテプ3世の時代には、エジプトは他国から朝貢を受ける程国力も強大になり、国際都市として繁栄の頂点にあった。彼の息子で、アメンホテプ4世は父王の後継者として新国王に即位してから約5年後、突如古来からの多神教と主神アメン・ラー神を捨て去り、それまで多神教の中の弱小で殆ど無名の「アテン神」を唯一の神として信仰する宗教改革を行った。それに伴い、自分の名前までアクエンアテン（アテンの光輝または生ける魂の意味）に改名した。辺境の地アマルナに新都を突貫工事で建設した。新都はアケトアテン（アテンの地平線と言う意味）と名付けられ、ナイル川沿岸

に父王の時代には想像もできなかつた程の、周囲約10Km四方の小さな町へ首都テーベを捨てたアクエンアテン王は、皆を引き連れて遷都した。あろうことか、アクエンアテン王はこの町はずれに境界碑をいくつも建てて、この境界から外へ一步も出ないと宣言したので。エジプト国王がこの小さな町から一步も出ずに、どうして広大なエジプト王国を統治し政治を行えるだろうか。国王は政治には殆ど関心を持たず、ただひたすら新宗教の教祖として布教に没頭したようだ。アクエンアテン王の性急で狂信的とも言える改革は、その一方で伝統的なエジプト様式の造形美術工芸の分野にも深い影響を与えた。新しい息吹はいわゆる「アマルナ芸術」として、自由で写実的な様式を生み出した。その結果、現代の技術をもってしても最高傑作と言われる「黄金のマスク」が生まれた。

アクエンアテン王の統治は約17年続いたが、国王没後は、今迄の急激な宗教改革と顧みられることの無かつた政治に対して、アメン神を信奉する旧来のアメン神官団を筆頭に当然猛烈な反発と大混乱を招いたであろうことは、想像に難くない。

後世、この異端の王は「アクトアテンの犯罪者」とまで言われ、歴史から抹殺された。

このように国家として非常に厳しい時代に、若いスメンカーラー（たぶん20代前半）は、アクエンアテンの長女メリトアテン（正妃から誕生した王女）と結婚し、王位継承者として統治を始めたが、わずか3年位で彼は死去したようだ。彼の出自はよくわからないが、おそらくツタンカーメンの兄か極めて近い親族だったと思われる。

スメンカーラーの急死は、当時の王族や廷臣達に衝撃を与えたことだろう。それで急遽、わずか9歳の幼いツタンカーメンが、アクエンアテンの三女（正妃から誕生した王女）アンケスエンアテン（おそらく18歳位）と結婚し、即位することになったらしい。

新王国時代初期から王位継承権は王の「第一王妃（正妃）」の長女が握るというしきたりに従い、王子といえどもその身分だけでなく、更に王権を確実に正統な後継者とするために、近親結婚をすることがあった。ただ、少なくとも三人の王はそうしなかつた。アクエンアテンとトトメス4世は異国の王女と結婚し、アメンホテプ3世は廷臣の娘を正妃にしている。

ツタンカーメンの即位に対して特に反対がなかつたことから、彼が王子であるのは確実なのだが、彼の両親についてはよく分からなかつた。一説には、父親はアメンホテプ3世で、王の晩年に生まれた、アクエンアテンと年の離れた兄弟か、それともアクエンアテンが父親で正妃以外の側室に生まれた王子とも言われていた。

このようにエジプト国内外に問題山積のまっただ中に、新国王とは名ばかりの幼いツタンカーメンにかわって、長年仕えてきた老宰相のアイが実権を握った。新政権にとって、真意はどうであれ、反対勢力をなだめるには、まず「アテン神」を捨て、「アメン・ラー神」を復活させることが急務であった。国王自ら、自分の誕生名であるツタンカーテン（アテンの生ける似姿と言う意味）という名を、即位後は現在では誰もが知っているツタンカーメン（アメンの生ける似姿という意味）に改名し、王妃もアンケスエンアメンに改名した。更に首都を以前のテーベに戻した。「永遠の都」とアクエンアテンに賛美されたアマルナは、わずか20年余りの栄華の末に、反対派に徹底的に破壊され、うち捨てられて砂漠の廃墟となった。そして、人々の記憶からも消え去った。

ツタンカーメン王は在位約10年、18歳位で子供も残さず早世した。病死か、それとも暗殺による非業の死であったのか、長くこの論争は続いていた。というのは、残された王妃アンケスエンアメンが、長年の敵国であったヒッタイト国王に秘密の手紙を書き送っていたことが、ヒッタイト国側の長文の年代記に記録されていたのが偶然発見されたからである。

「貴国の王子を是非私にください。その王子は我が夫となり、エジプト国王になるでしょう。偽りではありません。貴国にだけこのような手紙を送っているのです。私は決して自分の召使い（臣下）を選んで、夫とはしなかつもりです。……」

この突然の申し出に、ヒッタイト王は大いに怪しみ、臣下をエジプトへ派遣して真偽のほどを確認させた。その結果、間違いのない事が分かったので、ヒッタイト王は自国の王子をエジプト王室へ送った。しかし、エジプトへ入国寸前に王子一行はエジプト軍に捕らえられ暗殺された。当然ヒッタイト王は激怒し、エジプトと数年間戦争状態が続いた。

未亡人の王妃アンケスエンアメンは、待ちわびたヒッタイト王子が暗殺された事を知ってどれほど落胆したことだろう。葬儀の準備期間・ミイラ作成は70日間と決まっている。悲嘆の内に慌ただしくツタンカーメン王の葬儀を済ませた後、未亡人アンケスエンアメンは、王位継承権を正当化するために、老宰相のアイ（王族の出身）を新国王として、結婚をし正妃になった。この結婚はアンケスエンアメンが真に希望したものなのか、それとも絶望に打ちひしがれた中で、やむなく挙行されたのか……

新国王アイは、次期後継者として葬儀を執り行ったようすがツタンカーメン王墓の壁面に描かれている。アイは在位4年位で死去し、将軍ホルエムヘブが非合法的に即位した。どうやらヒッタイト王子暗殺は、当時軍隊を掌握していたホルエムヘブ将軍の命令だったと考えられる。

王室とは関係の無いホルエムヘブ新国王即位により、かくして第18王朝は断絶した。ホルエムヘブ王は、アメンホテプ4世（アクエンアテン）、スメンクカーラー、ツタンカーメン、アイの4人の王名をすべての記念碑から削り取り、王名表からも削除した。アメンホテプ3世（アクエンアテンの父王）の直後に、自分の時世がくるよう書き換えた。もちろんアテン神もアテン信者も迫害・追放・破壊され消滅した。きっとその際、多くの血が流されたことだろう。アイの王墓は埋葬直後に、無残にも徹底的に破壊された。

4人の王は歴史から姿を消したが、これが結果的に1922年イギリスのハワード・カーターに発見されるまで、幻の少年王は、永い眠りにつくことができたのである。

カーターは発掘当時からツタンカーメン王副葬品の多くが、故意に名前を削ったり、書き直されているが、前王のスメンクカーラーの所有物であると認めていた。主要な目立つ場所の名前は書き直されていたが、目立たない場所や、小品の類いはそのままスメンクカーラーの名前が残されていたからだ。流用品の最たる物が、ツタンカーメン王の第2人型棺と内蔵入れに顕著に現れている。誰もが一見して、他のツタンカーメンとは全く違う人物だと分かる程異なった、顎の角張った成人男性の顔である。

スメンクカーラーは、国王として正式に埋葬されたのは、この第2人型棺が現存するので明白であるが、ツタンカーメンに棺を奪われた後、どうなったのか。

一人取り残されたアンケスエンアメンは、その後どうなったのか。彼女はアクエンアテンの正妃ネフェルトイティから誕生した王女であるが、母后亡き後15歳位の時、最初の結婚で父王の後の一人となり、王女を出産している。古代の王家では近親結婚が珍しくなかった。生まれた王女は早世したようだ。父王亡き後は、アンケスエンアメンは18歳位の時、わずか9歳のツタンカーメンと二度目の結婚をした。若き国王夫妻は出産には至らなかったが、早産や流産の2人の胎児（女）のミイラがツタンカーメン王墓の中から発見されている。そして、最後は老宰相のアイと三度目の結婚をして、また未亡人になった。ネフェルトイティはアンケスエンアメンの母で、アクエンアテン王（アメンホテプ4世）の正妃である。彼女の胸像は廃都となったアマルナの工房跡から発見された。今ではベルリン・エジプト博物館に所蔵されている。ネフェルトイティとは「美しい人が来た」と言う意味のとおり、美しく彩色されたその胸像は、現代人の私達から見ても、実に気品と威厳に満ちた美女であり、土着のエジプト人ではないことが分かる。しかしその左眼は無い。これはわざと眼を入れずに、未完成即ち魂を入れずにおこうとしたものなのか、それとも完成していた王妃像を、何者かが後から王妃を冒瀆するために、わざと左眼をえぐり取ったのか……。

トトメス4世（アクエンアテン王の祖父）の頃から、エジプトは国際都市として栄えており、後宮には異国の王女達も輿入れしていたので、おそらくネフェルトイティも異国の王女だったと思われる。

長い間謎であった、ツタンカーメン王の死因と彼の両親について、ついに解き明かされる時がやって来た。2005年エジプト考古庁長官ザヒ・ハワスらによって、CTスキャン等の現代の最新機器を駆使した結果判明した。それまで死因は、頭部打撲による暗殺説が有力であったが、詳細な調査の結果、彼は左脚骨折後、間もなく死去したようだ。左脚の負傷状況は、重傷でそれはまるで交通事故のような強い衝撃で起こる傷であった。彼の王墓には4台の戦車が解体されて置いてあった。現代の若者がスポーツカーに夢中になるように、ツタンカーメンも戦車（馬に引かせる軽量の車）を走らせながらそのスピードに酔いしれていたのかもしれない。おそらく、戦車を走らせていた時、予期せぬ事故が起り、彼は戦車から投げ出された際、左脚に重傷を負ったのだらう。傷は深くその傷口から細菌感染を発症し、数日後に死亡したらしい……。

古代から王墓の宝物を狙った墓荒らしによる、盗掘が相次いだ。紀元前1000年頃神官達が遺体を守るために、いくつかの場所に隠したらしい。埋葬時は眼も眩むような豪華な副葬品に囲まれていたはずのミイラ達は、無残な姿で床に放置されたりしていた。

その後2008年専門家チームの協力のもと、DNA鑑定を行うことによって、ツタンカーメンの両親を突き止める研究が始まった。11体のミイラのうち、4体は身元が分かっていた。さらにツタンカーメン王墓から発見された2体の胎児からもDNAを採取した。ミイラによって防腐剤は異なるので、不純物除去の方法もその都度違い、DNAサンプルを採取分離するのは困難を極めた。ミイラを作成する際に使用した種々の香料や防腐剤、そして古代の人々や発掘後その遺体を触った者や今回の研究者自身のDNAが混入しないよう細心の注意を払いながら、必ずミイラの骨の深奥部から数カ所ずつ採取した。こうしてDNA断片から、失われたパズルのピースを1個1個当て填めていくような地道な作業が始まった。

1898年アメンホテプ2世の墓（KV35号墓）内の小部屋から発見されたミイラの1体で、通称「老婦人」と呼ばれていたのは、アメンホテプ3世の正妃でティイ王妃と分かった。同じくもう1体の「年下の女性」と呼ばれていたのは、ティイ王妃から生まれた王女で、アクエンアテンの同母姉妹であった。この実の姉妹がツタンカーメンの母親だと判明した。

1907年、アメリカ人で弁護士のアマチュア考古学者セオドア・デイビスが「王家の谷」の小さな墓（KV55号墓）で奇妙なミイラを発見した。調査隊は彼の従兄弟や発見物を模写・写生係の画家や本職の考古学者 E・エアトン等であった。入口の壁のすぐ奥にも壁があり嚴重に二重に封鎖されていた。部屋の奥には、ライオンの頭を型取った木製の棺台が倒壊して、棺は床に崩れ落ち、蓋も外れて剥き出しになったミイラが見つかった。ミイラが入られていた棺は金箔で装飾されていた。棺蓋に描かれていたはずの顔の部分が切り取られ、右目だけが残っていた。額には青銅の聖蛇の残骸があった。正面のカルトゥーシュ（王名を囲む楕円形の枠）に書かれた名前は削り取られていた。ミイラは王妃のように片腕を胸元で曲げ、もう一方の腕を脇に伸ばした王妃の埋葬姿勢であった。頭には秃鷲を型取った、同時代の王妃や王女の肖像に使用された黄金の冠が飾られていた。床には土器や護符、数枚の黄金のパネルなどが雑然と散乱していた。壁龕（壁に掘った装飾的な窪み）には、白い方解石製の内蔵入れの壺が4個置かれてあった。その壺には美しい女性の人头型の栓が付いていた。しかしその壺の名前は削り取られていた。後年その壺の持ち主はアクエンアテン王の第2王妃のキヤだと分かった。部屋の四隅には呪術煉瓦（死者を呪術によって守るために四方の窪みに置く護符）があった。これには必ず被葬者の名前が刻まれるのであるが、その名前はなんとアクエンアテン王であった。室内にはめぼしい副葬品もなく、壁画も塗りつぶされて、しかも前例のない二重に壁を封鎖された片目の不気味なミイラが、無残な姿で瓦礫の中に横たわっていたのだ。それは見るもおぞましい、まるで、永遠の罰を受けて、生きることも死ぬこともできずにいるかのようであった。

発見当時は、誰もがこのミイラを身元不明の王妃だと思ったのも無理はなかった。

1963年リバプール大学のハリソン教授らがこのミイラを調査して、遺体は20代の若者であり、更にこの男性はツタンカーメン王の兄又は極めて近い血縁関係にある者だと報告した。それで、長い間このミイラはスメンクカーラーだと思われていた。

しかし、2008年ザヒ・ハワスらのDNA鑑定によって、このミイラは若い男性ではなく40代の男性で、アメンホテプ3世と正妃ティイ王妃から生まれたアクエンアテン王だと分かった。そしてアクエンアテン王は正妃ネフェルトイティが亡くなった後、実の姉妹に、ツタンカーメンを産ませていたのだ。つまり、ツタンカーメンは父と姉妹の近親結婚で生まれ、そのツタンカーメンは異母姉のアンケスエンアメンと結婚していたことが今回新たに分かった。今回の調査で更に、ツタンカーメンは生まれながらに、左足に障害を持っていたことも分かった。彼の王墓からは多数の杖が発見されていた。従来「杖」は王笏として権力の象徴に使われることもあるが、彼の場合は実際使用した形跡のある杖もあっ

た。今迄国王の中で、ツタンカーメンだけが座位のまま、矢を射たりしている姿や、王妃と二人仲睦まじく語らいの立ち姿でも彼は杖をついているのが謎であったが、その理由は、杖は彼にとって日常生活に不可欠の品物だったのだ。足が不自由だったから尚更戦車に乗るのが好きだったのかもしれない。

ツタンカーメンの王墓から発見された2体の胎児には、奇形が見られた。彼自身も先天的な障害を持ち、胎児にも先天的障害があった。誰よりも世継ぎの誕生を心から願っていた国王夫妻が残念ながら無事に出産に至らなかったのは、度重なる近親結婚の結果であるうか。

1817年KV21号墓で発見された2体の女性ミイラについて、発見後に乱暴な扱いを受けたために頭部が無い一体は研究段階だが、ツタンカーメン王妃のアンケスエンアメンと考えられる。

アクエンアテン王の王墓はアマルナの郊外に、国王夫妻用の大きな玄室とそれに連なる3小部屋からなる、家族墓が準備されていた。壁の壁画やレリーフはほとんど消し去られていたが、天井付近に碑文の痕跡があり、王墓だと分かった。もちろん国王夫妻も最初はその墓に埋葬されたはずだが、ツタンカーメン王が、アマルナを捨てて再びテーベに遷都した時に、きっとこの墓から親族の遺体をどこか然るべき場所に移したはずである。

謎の第55号墓はツタンカーメン王の父王墓で、彼の墓からすぐ近く13mの場所に位置しており、この二つの墓の入り口はお互いに向き合うように設計されていたのだ……。

アクエンアテン王はなぜ王妃のような姿で埋葬されたのだろうか。

アクエンアテン王の正妃ネフェルトイティは、今どこに埋葬されているのだろうか。

スメンクカーラー王は、第2人型棺や内蔵入れの小棺をツタンカーメン王に奪われた後、今どこに埋葬されているのだろうか。

アクエンアテン王の第2王妃のキヤは、人型棺や内蔵入れのカノポス壺をアクエンアテン王に奪われた後、今どこに埋葬されているのだろうか。

考古学は、数学などと違って答えが「1つ」ではない。考古学の「定説」は、新発見や発掘によって、一夜にして覆される。そこには理論一点張りだけではない、夢と空想と詩的心情が多分に色濃く漂っている学問だ。人はこの途方もない、夢と空想とロマンに駆り立てられて、それこそ雲を掴むようないつ発見できるとも全く確証のない発掘を何十年でも続けられるのだと思う。

考古学は、ズブの素人でも遺跡や遺物を眼にすると、遙か古の国々や、その時代に生きた人々の、夢や野望や興亡の儚さに思いを馳せることができる。

素人には権威や立場は無用だから、素直に自分の直感を信じて自説を心おきなく主張したいものだ。

本当に考古学は、奥が深くて楽しみのつきない学問である。

私が初めてツタンカーメン王の黄金のマスクを見てから、50年が過ぎようとしている。時折ツタンカーメン王についての新発見や研究成果が発表される度に、心躍らせてそれを楽しみに待ち続け、黄金の少年王に魅せられて追いつけてきた。

2010年(平成22年)ナショナル・ジオグラフィック日本版9月号に掲載された「ツタンカーメン 解き明かされた系譜」(文責ザヒ・ハワス)によって、ザヒ・ハワスエジプト考古庁長官の長年に渡る詳細な研究成果を、ようやく私達は目にすることができて望外の喜びで一杯であった。

まだまだ謎は残るが、私の心の旅の目的は達成されたので、ひとまず終えることにしよう。

(参考資料)

1965年 朝日新聞社発行 「ツタンカーメン展」

1999年 グレアム・フィリップス著「消されたファラオ —エジプト・ミステリーツアー—」

2010年 ナショナル・ジオグラフィック日本版9月号「ツタンカーメン出生の秘密」

1 題材『アンサンブルを楽しもう』(クラシックギター)

2 教材 ◇きらきら星 フランス民謡

◇『リュートのための古風な舞曲とアリア』から O. レスピーギ作曲

3 題材の目標

- (1) クラシックギターに関心を持ち、歴史や特徴について理解することができる。
- (2) クラシックギターの名曲についてさまざまな形態の演奏を鑑賞し、クラシックギターのもつ美しい音色や豊かな表現力について理解することができる。
- (3) 正しい姿勢、基本的な奏法で演奏することができる。
- (4) クラシックギターの音色や奏法の特徴を生かし、アンサンブルすることができる。

4 題材について

(1) 題材設定の理由

多くの生徒は、今までにクラシックギターの経験はないが、興味を持っている生徒は非常に多い。

クラシックギターはどちらかといえば「メロディーと伴奏を同時に行う独奏」のイメージがあるが、コードを押さえたりすることは個人差が付きやすく、この時期の授業で扱うには難しさもあるので、ギターアンサンブルを中心に授業を行うことで、比較的易しく音楽体験をすることができると考え、本題材を設定した。

(2) テーマとの関係

「つかもう」・・・模範となる音源や映像を見て、演奏のイメージをつかもう。

「やってみよう」・・・クラシックギターの音色や奏法の特徴を生かし、演奏してみよう。

「ひろげよう」・・・ギターアンサンブルをとおして、音楽の世界をひろげよう。

(3) 生徒の実態

本校では、1学年時に芸術Ⅰを2単位履修し、2学年時は理系の生徒が1単位、文系(英語コースを除く)の生徒が芸術Ⅱを2単位履修する。3学年時に選択科目として、文系のみ音楽関係進学希望者を対象に、芸術Ⅲを2単位履修している。

1年2, 3組の音楽選択者は、男子6名、女子14名の計20名で非常に明るく、意欲的に取り組むクラスである。ピアノや吹奏楽等の楽器経験のある生徒も多く、楽譜を正確に読み取ることができる生徒も多い。一方、音楽は好きで積極的に授業に参加しているが、あまり理解できていない男子生徒もいる。

(4) 指導上の留意点

ア クラシックギターに関心を持たせるために、歴史や特徴について理解させるとともに、さまざまな形態の演奏を鑑賞させる。

イ 正しい姿勢、基本的な奏法を身に付けさせる。

ウ アンサンブルに対する理解を深め、表現の楽しさや喜びを味わわせる。

5 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能	観点4 鑑賞の能力
題材の 評価規準	クラシックギターの音色や奏法に関心を持ち、これらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、様々な表現形態による器楽の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	クラシックギターの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、クラシックギターの音色の特徴と表現上の効果の関わりを感じ取って、アンサンブルの良さや美しさを創造的に味わって聴いている。
具体の 評価規準	① 楽器の扱い方に注意しながら、正しい姿勢、奏法に主体的に取り組んでいる。 ② 楽曲に積極的に取り組んでいる。	① 自分の音を聴きながら、正しい音程・リズムを理解し、表現を工夫して演奏している。 ② 決められた奏法を理解し、表現を工夫して演奏している。	① 他のパートを聴きながら演奏することができる。	① ギターの持つ音色を理解し、アンサンブルされたときの美しい音色や豊かな表現力を味わって聴くことができる。

6 指導計画 (全7時間)

次	時	学習内容	題材の評価規準	評価方法
1	1	○ クラシックギターの概要 ・ 歴史や基礎(構え方, 運指, 奏法)を学習する。 ・ さまざまな形態の演奏を鑑賞する。	観点1 ① 観点4 ①	行動観察 ワークシート
2	2	○ 『かっこう』, 『喜びのうた』を練習する。 ・ 正しい姿勢で演奏するように注意する。 ・ 運指と奏法に気を付けて演奏する。	観点1 ①, ② 観点2 ①, ②	行動観察 ワークシート
3	4 (本時)	○ 『きらきら星』, 『リュートのための古風な舞曲とアリア』から を練習する。 ・ タブ譜について学習する。 ・ パート練習をする。 ・ アポヤンド奏法を使い、豊かな音色で演奏できているか、確認する。 ・ ハーモニーを感じながら演奏する。 ・ グループごとに発表をし、感想を述べ合う。	観点1 ② 観点2 ② 観点3 ① 観点4 ①	行動観察 聴取 ワークシート

7 本時 (6 / 7)

(1) 本時の目標

クラシックギターの音色や奏法の特徴を生かし、他のパートを聴きながらアンサンブルすることができる。

(2) 展開

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価の 規準	評価方法
導入	10	1 基礎練習(単音) ・開放弦 ・ハ長調の音階	・学習に対する意欲を持たせる。 ・姿勢, 弦の押さえ方, 奏法を確認させる。	観点1①	行動観察
展開	35	2 本時の目標と流れの確認	・本時の目標と学習の流れについて知らせ、意欲を高めさせる。		
		クラシックギターの音色や奏法の特徴を生かし 他のパートを聴きながらアンサンブルしよう。			
		3 「リュートのための古風な舞曲とアリア」からの練習をする。 ・パートごとに練習する。 ・全員で演奏する。 ・グループで練習する。	・各パートを巡視し、確認させる。 ・互いの音に耳を傾けながら、豊かな響きで演奏できるように心がけさせる。 ・少人数でもしっかり弦を響かせて、豊かな音で演奏できるように奏法を確認する。	観点1② 観点2① 観点3① 観点3①	行動観察 行動観察 行動観察
		4 グループ発表 ・1グループのみ発表を行う。 ・感想を発表する。	・グループの演奏を聴いて、良い点や工夫する点などを発表させる。	観点4①	行動観察
終末	5	5 本時のまとめと次時の説明をする。	・ワークシートに本時の学習の記録をさせる。 ・今後の流れを説明する。		ワークシート

(3) 評価

楽器の音色や奏法の特徴を生かし、他のパートを聴きながらアンサンブルをすることができたか。

# きらきら星

ポジション 3/4部

ポジション 4/4部

フランス民謡

div. in 2 parts

The musical score for 'きらきら星' is presented in three systems. Each system contains three staves: a treble clef staff for the melody, a bass clef staff for the bass line, and a guitar staff for accompaniment. The melody is written in a simple, repetitive pattern of eighth notes. The bass line consists of a steady accompaniment of eighth notes. The guitar accompaniment includes chords and fingerings for the left hand. The score is annotated with 'Pos. 1', 'Pos. 3', and 'Pos. 4' for different guitar positions. The chords are C, G, F, and C. The fingerings are indicated by numbers 1-3 in circles. The guitar staff also includes a 'P' (pizzicato) marking and a '3' (triple) marking. The score is divided into two parts, with the first part ending at the end of the second system and the second part starting at the beginning of the third system.



## 英語科（コミュニケーション英語Ⅰ）学習指導案

実施日時 平成26年11月26日（水）5時間目

指導学級 1年2組30名（男子16名，女子14名）

授業者 吉森 智大

指導教材 Lesson9 Sesame Street (三省堂 MY WAY English Communication I)

### 1 学級の実態

#### ①概観

本クラスは活発な生徒が多く明るい雰囲気である一方，授業では集中力に欠けたり学習に取り組む意欲が低かったりする者が少なくない。アンケートの結果，ほぼ全ての生徒が英語に苦手意識を持っているものの，英語の必要性を感じ将来的には英語で自分の意志を伝えたいと思っている生徒も多い。本時を通して教材の内容を理解するだけでなく，自ら考える力を養い自分の考えを表現する能力を高めたい。

#### ②学習到達状況

授業終了時に実施したアンケートでは，過半数の生徒が本課の内容を理解しているようである。しかし学習した英語表現を適切に使う，あるいは自分の考えを英語で書く，話すことについては，ほぼ全ての生徒が苦手意識を抱いている。また，授業中の指導者による英語での説明も多くの生徒が理解できていない。それでもほとんどの生徒が自分の考えを英語で言えるようになりたいと思っている。よって本時では，本課の内容を復習しながら，さらに内容理解を深め，自分の考えを表現できる技能を高めることに焦点を置く。

	Can-Do Skills	できる/比較的できる(回答 30名)
Reading	本課の内容を読んで理解できる。	66.6%(20名)
Writing	学習した表現を正確に使うことができる。	10.0%(3名)
Speaking	自分の考えを英語で言うことができる。	10.0%(3名)
Listening	指導者(ALT含む)の英語での説明を理解できる。	30.0%(9名)
Attitude	自分の考えを英語で話せるようになりたい。	86.6%(26名)

### 2 教材観

セサミストリートは子育て支援と教育啓発を目的とした子供向け長寿番組で，1969年にアメリカで放送開始されて以来140カ国以上で放送されている。登場人物はそれぞれ形，色，大きさ，人格に特徴があり，それぞれの国や地域によってもキャラクターは異なる。その背景には，番組が放送される以前の1950～60年代では，黒人差別を発端とする公民権運動が活発だったことがある。番組の理念は「人間の多様性と平等は不可欠である」であり，本教材を通じて生徒たちにこの番組のメッセージについての理解を深めてもらいたい。

### 3 指導計画

指導内容	配当時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・セサミストリートの特徴を理解する。(Section1)</li> <li>・実際のセサミストリートの番組を見て、どのようなものかを知る。</li> <li>・条件を表す"if～"の使い方を理解する。</li> </ul>	1 時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にセサミストリートの番組を見て、どのようなメッセージが込められているかを考える。</li> <li>・セサミストリートの理念は「人間の多様性と平等は不可欠である」ということを理解する。(Section2)</li> <li>・"If I were..., I would～" (仮定法) の使い方を理解する。</li> </ul>	2 時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・セサミストリートは国や地域が抱えている問題に応じてキャラクターや取り扱っている内容が異なることを知る。(Section3, 4)</li> <li>・本レッスンで紹介された国の問題点について実際に調べて、理解を深める。</li> <li>・願望を表す"I wish S+V"の使い方を理解する。</li> </ul>	2 時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本レッスンの内容を再確認し、要約した英文を暗唱・発表する。(本レッスンのまとめ)</li> <li>・セサミストリートの背景にある公民権運動について理解を深める。(発展)</li> <li>・公民権運動のきっかけとなった黒人女性ローザ・パークスの事件について仮定法を用いて自分の考えを英語で表現する。(発展)</li> </ul>	2 時間 (本時 2 時間目)

### 4 評価

	評価の観点	本時のねらい
①	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	セサミストリートのもつメッセージについて、自分の考えをまとめようとする。
②	外国語表現の能力	1)現在の事実と反することや実現の可能性が低いことがらについて、仮定法過去を含む英文で言うことができる。 2)本課の内容について、英問英答したり、知り得た情報を英語で言ったりすることができる。
③	外国語理解の能力	本レッスンの要約された英文を読み、その内容をイラストに合わせて英語で言える。
④	言語や文化についての 知識・理解	セサミストリートが大切にしている多様性と平等性について、さらに深く調べようとする。

6 指導の実際

過程	主な学習活動	時間	教師の活動 及び指導上の留意点	評価
導入	○本レッスンの新出単語について復習をする。 ・教師が単語を発音したら、意味を日本語で答え、日本語で聞かれたら、単語を発音する。	3	・Lesson9の新出単語の意味・発音を確認する。 ・キーワードとなる単語は繰り返し確認する。	② ③
	○本時の学習目標を確認する。	3	・スライドで、本時の学習目標を提示する。	
展開 I	○Lesson9を要約した英文を暗唱する。 1)英文を音読練習する。 2)スライドに表示されたイラストに合わせて覚えた英文を発表する。	10	・自ら進んで発表できるよう難易度の低い活動から始める。	① ② ③
展開 II	○公民権運動のきっかけとなったローザ・パークス事件について確認する。	7	・セサミストリートとの関連性を持たせながら、ローザ・パークス事件について説明する。	③ ④
	○グループ内で、英語で意見を発表する。 1)3人グループを作り、ローザ、バスの運転手、乗り合わせた客の3つの役に分ける。 2)それぞれの立場であれば、どのような行動を取っていたかをグループ内で発表する。 3)3～5分ごとに役を変え、3セット行う。	15	・自分がその立場であればどのような行動をとるか、生徒自身の考えを発表するよう伝える。 ・相手の意見をよく聞き、それを踏まえて他者と自分の考えの違いに気付かせる。 ・自由に発想するよう伝える。 ・英語を使うことを原則とするが、表現が難しい場合は、日本語で補足説明してもよいことを伝える。	① ② ④
	○生徒による発表 1) ローザ、バスの運転手、乗り合わせた客の3つのいずれかの立場で意見を発表する。 2)他の生徒の意見を聞く。 ○意見をまとめる。	7	・それぞれの立場ごとに生徒に意見を求める。 ・自分が立場を変えることで、どのように考え方に変化が生じたか、気づかせる。	② ③ ④
終末	○本時のまとめ	5	・セサミストリートの理念である多様性、平等に共感できたか確認する。	①

## <Homework 2>

Sesame Street の背景にある The civil rights movement (公民権運動) の  
きっかけとなる事件

( ) 事件

1955年,黒人女性の( )が,バスの( )の座席に座っていると,  
白人客が次第に増えてきたので,バスの運転手から( )のように言われたが,それを聞き入れなかった( )は逮捕された。

※当時は「人種分離法」という法律があったので,それを守らないと逮捕される。

Q. もしあなたが ア) 黒人女性( ), イ) バスの運転手, ウ) 乗客(passenger)  
の立場であれば あなたはどのような行動をしたらろうか? 仮定法を使って表現しよう。そして,その行動の理由も書こう。注意) 必ず3つの全ての立場に立って書くこと。

ア) If I were ( ), I would \_\_\_\_\_  
Because \_\_\_\_\_.

イ) If I were the bus driver, I would \_\_\_\_\_  
Because \_\_\_\_\_.

ウ) If I were a passenger, I would \_\_\_\_\_  
Because \_\_\_\_\_.

## <グループ活動>

3人グループを作り, ア) 黒人女性 イ) バスの運転手, ウ) 他の乗客のいずれかの立場にたつ。自分の立場で意見を述べ,グループ内で話し合う。

(発言者)

Let me try first!

If I were ( ), I would \_\_\_\_\_

(他のメンバー)

Why?

(発言者)

Because \_\_\_\_\_.

(他のメンバー)

I agree with you. / No, no, no! I disagree with you.

If I were ( ), I would \_\_\_\_\_.

# 数 学 科 学 習 指 導 案

日 時 平成 26 年 6 月 27 日 (火) 第 2 校時  
 場 所 鹿児島県立志布志高等学校 1 年 3 組教室  
 対 象 普通科 1 年 3 組 (男子 17 名, 女子 14 名)  
 授 業 者 教 諭 中村 亨  
 使用教科書 数学 I (第一学習社)  
 使用副教材 チャート式 数学 I + A (数研出版)  
 類比方式による問題集 数学 I ・ A (県数教)

## 1 単元名 数学 I 「第 2 章 2 次関数」

### 2 単元の目標

- (1) 関数の概念を, 互いに関連しながら変化する対応関係として理解する。
- (2) グラフをかくことによって, 関数の変化の具体的な様子をつかむことができることを理解する。
- (3) 放物線の性質 (軸, 頂点, 対称性など) について理解する。
- (4) 2 次関数の最大値・最小値に着目し, さらに定義域を制限したときの 2 次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。
- (5) 2 次関数のグラフと  $x$  軸の共有点に着目し, 2 次関数と 2 次方程式の関連について理解する。
- (6) 2 次関数のグラフと  $x$  軸の共有点の個数を見分ける方法について理解し, その方法に習熟する。
- (7) 2 次不等式の解法を, 2 次関数のグラフをもとにして理解し, 習熟する。
- (8) 2 次不等式の連立について理解し, その解法に習熟する。

### 3 単元の指導計画 (第 2 章 2 次関数 計 27 時間)

項目	指導内容	時間
1 節 関数とグラフ	関数	(13) 1
	2 次関数のグラフ	3
	グラフの移動	2
	2 次関数の最大値・最小値	3
	2 次関数の決定	3 (本時)
	節末問題	1
2 節 2 次方程式・2 次不等式	2 次関数のグラフと 2 次方程式	(12) 4
	1 次関数のグラフと 1 次不等式	0.5
	2 次関数のグラフと 2 次不等式	4.5
	2 次不等式の応用	2
	節末問題	1
章末問題		1
課題学習		1

#### 4 生徒の実態

数学を苦手になっている生徒が多い。授業に対する姿勢は良いが、日々題や休日課題をチェックしてみると、雑な答案が多く、簡単な計算ミスも目立つ。そこで、演習の時間をできる限り充実させるように机間指導を工夫するとともに、予習・復習の徹底と、復習を促すための手だてとして授業で取り組んだ問題を宅習課題として再度取り組ませるようにしている。

#### 5 本時の実際

(1) 本時の主題 「2次関数の決定」

(2) 本時の目標

- ① 与えられた条件から、2次関数を求める。【数学的な見方・考え方】
- ② 定義域に制限がない場合とある場合との最大値・最小値を考え、グラフをイメージすることにより2次関数を決定する。【表現・処理】

#### 6 学習経過

過程	時間	学習活動		指導上の留意点ならびに評価
		指導者	生徒	
導入	5分	前時の復習	問23を板書しておく。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     次のような放物線をグラフとする2次関数を求めよ。                      (2) 軸が直線 <math>x = 2</math> で、2点 <math>(-1, 17)</math>, <math>(1, -7)</math> を通る。                 </div>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に質問をする形で解説する。</li> <li>・本時の内容の紹介をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の内容について、質問に答える。</li> <li>・本時の内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数を求めるときには、必ずグラフをイメージしてから、 一般形 <math>y = ax^2 + bx + c</math> 標準形 <math>y = a(x - p)^2 + q</math> のどちらかを利用することを強調する。</li> </ul>
展開	10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     例14 <math>x = 2</math>で最小値-3をとり、<math>x = 1</math>のとき<math>y = 6</math>である2次関数を求めよ。                 </div>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えた条件からグラフをかかせて、頂点の位置と下に凸のグラフであることを導く。 (解) この2次関数は、<math>x = -2</math>で最小値-3をとるから <math display="block">y = a(x + 2)^2 - 3</math>ただし、<math>a &gt; 0</math>とおける。 また、<math>x = 1</math>で <math>y = 6</math> より、 <math display="block">6 = a(1 + 2)^2 - 3</math>よって、<math>a = 1</math> これは、<math>a &gt; 0</math>を満たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフをかく。</li> <li>・下に凸のグラフであることに気づく。</li> <li>・頂点の位置に気づく。</li> <li>・<math>y = a(x + 2)^2 - 3</math>とすると、グラフは下に凸なので、必ず<math>a &gt; 0</math>と考える。</li> <li>・<math>a</math>の値が、条件を満たしているかどうか確認する。</li> </ul>	

	10分	したがって、 $y = (x+2)^2 - 3$ 問 26 を解かせる。	問 26 を解く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>必ず最初にグラフをか くように指導を徹底す る。</li> <li>①の評価</li> </ul>
	10分	<p><u>例題 9</u> 2 次関数 <math>y = ax^2 - 4ax + 5</math> (<math>-1 \leq x \leq 3</math>) の最大値 が 15 であるように、定数 <math>a</math> の値を求めよ。ただし、<math>a &gt; 0</math></p> <p>(解) <math>y = ax^2 - 4ax + 5</math> <math>= a(x-2)^2 - 4a + 5</math> これより、この関数のグラフの <math>x</math> 軸は、直線 <math>x = 2</math> である。 <math>a &gt; 0</math> より、グラフは下に凸で ある。よってグラフより、この 関数は <math>x = -1</math> で最大値 <math>5a + 5</math> をとり、<math>5a + 5 = 15</math> から <math>a = 2</math> これは、<math>a &gt; 0</math> を満たす。 従って、<u><math>a = 2</math></u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軸と、グラフが上に凸か下 に凸かを考えて、グラフをか く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に質問しながら平 方完成をする。</li> <li>②の評価</li> <li><math>a &gt; 0</math> であるかの確認 を強調する。</li> <li><math>a = 0</math> となることはな いことを説明する。</li> </ul>
	10分	<p>例題 9 で、<math>a &lt; 0</math> の場合を考え させる。</p> <p>(解) <math>a &lt; 0</math> より、グラフは上に凸で ある。よってグラフより、この 関数は <math>x = 2</math> で最大値 <math>-4a + 5</math> をとるから、 <math>-4a + 5 = 15</math> 従って、<math>a = -\frac{5}{2}</math> これは、<math>a &lt; 0</math> を満たす。 よって、<u><math>a = -\frac{5}{2}</math></u></p>	例題 9 で、 $a < 0$ の場合を考え える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>問 27 を宿題として解い てくるように指示する。</li> <li><math>a &lt; 0</math> であるかの確認 を強調する。</li> </ul>
ま と め	5分	<p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大値・最小値という条件か らでも、まずはグラフをイメ ージする。</li> <li>本時のまとめと次の時間の予 告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問された内容を、声に出 して答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 次関数を決定するに は、3 つの条件が必要な ことを確認する。</li> <li>問題をよく読み、<math>a &gt; 0</math> などの条件を見逃さない ように指示をする。</li> </ul>

## 7 評価

- ① 与えられた条件から、2 次関数を求めたか。【数学的な見方・考え方】
- ② 定義域に制限がない場合とある場合との最大値・最小値を考え、グラフをイメージすることにより 2 次関数を決定できたか。【表現・処理】

# L H R 学 習 指 導 案

日 時 平成 27 年 1 月 22 日 (木) 第 2 校時  
場 所 鹿児島県立志布志高等学校 パソコン教室  
対 象 普通科 1 年 3 組  
(男子 17 名, 女子 14 名)  
授 業 者 教 諭 中村 亨  
指 導 教 官 教 諭 中鶴 信孝

## 1 テーマ

「SNS を安全に使うためのルールを考える」

## 2 テーマ設定の理由

近年, LINE や Twitter , Facebook などの SNS の利用に関するトラブルが増えている。その原因は, 情報化の進展など社会の急速な発展の中で, 利用者が SNS の便利な点ばかりしか見ておらず, その裏に隠れている危険などを考えずに利用しているからだと考える。高校生においても, 自分の思いをうまく伝えられなかったり, 他者の思いを考えられず, 些細なことで友人間のトラブルを起こしてしまったりと, コミュニケーション能力において多くの課題があるように思える。

このようなことから, 今回の LHR では, 高校生の多くが利用している LINE を題材に取り上げ, LINE を安全に使うためのルールを考える。LINE について生徒が実際に体験したり聞いたりしたトラブル・問題点を挙げ, そうした問題を起こさないための対策を自分たちで考えさせる。また, お互いに意見交換の中で, 自分の考えを適切に表現する力や, 他者の言葉・意見に耳を傾ける力を身に付けさせたい。

## 3 生徒の実態

元気で男女ともに仲が良く, 休み時間などに賑やかに話している場面をよく見かける。しかしその反面で, 幼い言動が見えることがある。また, ほとんどの生徒がスマートフォンを所持しており, 宅習時間調査におけるスマートフォンの使用状況も高い。Twitter や Facebook を活用している生徒も多く, SNS でのトラブルも心配される。

## 4 本時の指導計画

本時の授業においては, LINE の適切な利用方法を生徒が主体的に考えられる授業となるように意識して取り組みたい。また, LINE についての意見交換をする中で, やっていいことと悪いことの識別を考えさせ, 今後の生活に活かしていけるようにしたい。

## 5 評価の観点

評価① 関心・意欲・態度	評価② 思考・判断・表現	評価③ 知識・理解
課題に対して周囲と協力しながら積極的に取り組んでいる。	自分の考えを適切に表現することができる。	LINE の適切な活用方法や, 他者場面や状況に応じたふさわしい表現について理解している。

6 本時の実際

時間	活動内容 ○：生徒の活動 ●：教師の活動	指導上の留意点, 評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前アンケートで聞いた, LINE を使う利点などを発表し, その上で本時の目標を確認する。</li> <li>● 本時の活動内容を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトを利用し, 随時活動内容を映し出しておく。</li> </ul>
展開①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ LINE を利用する際に気をつけるべきこと・実際に起こった, または, 起こりうる問題などについて考える。</li> <li>○ 6～7人の班を作り, 自分の意見を発表する。</li> <li>○ 各班で出し合った意見を, 代表者が発表する。</li> <li>○ 全体で出し合った, LINE に関する問題点をグループ分けする。</li> <li>● グループ分けしたものを各班に振り分ける。</li> <li>○ 与えられた問題点について, 対策をまずは1人ひとりで考える。</li> <li>○ 各班内で, 自分の意見を発表して, 班としての意見をまとめる。</li> <li>○ 班ごとに, 与えられた問題点に対する対応策を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が体験したことや, 身の周りの人が体験したことなどを書くように促す。 (評価②)</li> <li>・リーダー(発表者), 記録者を決めさせる。</li> <li>・1つの机を取り囲むような形で座り, 自由に意見を出し合う。</li> <li>・発表の際, 誰が体験した話であるなどの固有名詞は出さないようにする。</li> <li>・同意見が多数出てきて種類が少ないときには, 他の意見が出てくるように誘導する。</li> <li>・それぞれの問題・トラブルを起こさないためのルール作りを考えさせる。 (評価①)</li> <li>・各班の発表の最後に, 質問や補足の提案の時間を設ける。</li> </ul>
展開②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ LINE を利用して起こったトラブルや事件をインターネットで調べる。</li> <li>○ LINE を利用する上で気をつけようと思ったことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関係ないことを調べることがないようにする。時間がなければ, こちらからいくつか事例を紹介する。 (評価①)</li> <li>(評価③)</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各班の意見を見直して, LINE の利用に関する注意点を確認する。</li> <li>● 他の SNS などの事例を出し, 共通して注意すべきことを確認する。</li> <li>○ 自己評価用紙を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導で挙げられた, Twitter の個人名特定の話をする。 (評価③)</li> </ul>

# 携帯・スマホに関するアンケート

1. あなたはスマートフォンを所持していますか？  
( はい ・ いいえ )
2. あなたは LINE アプリを利用していますか？  
( はい ・ いいえ )
3. あなたは SNS を利用していますか？ あてはまるもの全てに○をつけてください。  
( Ameba Pigg ・ Twitter ・ Facebook ・ Mobage ・ mixi ・ その他 ・ 利用していない )
4. あなたが LINE を利用する上で、便利なことを教えてください。
5. あなたが SNS を利用する上で、便利なことを教えてください。
6. あなたが LINE を利用する上で、気をつけていることがあれば教えてください。
7. あなたが SNS を利用する上で、気をつけていることがあれば教えてください。

ご協力ありがとうございました。

# アンケート結果

1. スマートフォンを所持している **25 人** ・ スマートフォンを所持していない **2 人**

2. LINE を利用している **26 人** ・ LINE を利用していない **1 人**

3. 他の SNS の利用状況

Twitter 15 人 利用していない 10 人 Facebook 5 人 その他 1 人

4. LINE を利用する上で、便利だと感じる点

- ・簡単に連絡が取れる。
- ・文字だけでなく、音声や画像、動画も送れて、電話もできる。
- ・多人数で会話を行うことができる。
- ・夜にしゃべることができる。
- ・暇つぶしになる。

5. SNS を利用する上で、便利だと感じる点

- ・多くの情報を得ることができる。
- ・他の人の考えや近況を見ることができる。
- ・簡単に連絡が取れる。
- ・暇つぶしができる。

6. LINE を利用する上で気をつけること

- ・知らない人からの通知は拒否する。
- ・誹謗中傷、個人情報の書き込みをしない。
- ・課金をしない。
- ・使いすぎない。

7. SNS を利用する上で気をつけること

- ・知らない人からの通知は無視する。
- ・誹謗中傷、個人情報の書き込みをしない。
- ・変なサイトに行かない。

# LHR ワークシート

3組 ( ) 番 名前 ( )

1 LINE を利用して起こったトラブルや、  
起こりうる問題について考えてみよう。

LINE を利用する上での問題点

Diagram illustrating the flow of information from the question to the answer box.

問題点

2 上で挙げた問題点に対する対策を考えよう。

Blank box for writing countermeasures.

3 これから SNS を利用していく上で、あなたはどんなことに気をつけようと思いますか？

Blank box for writing future considerations.

自己評価 (感想)

Blank box for self-evaluation and感想.

## 平成26年（1月～12月）の記録

### 1 学校行事及び特記事項

#### 【1月】

- 6日（月）～7日（火） 冬季課外（3年）
- 8日（水） 始業式，課題・実力考査（1・2年）
- 9日（木） 課題・実力考査（1・2年）
- 11日（土） 土曜講座（3年），進研模試（1，2年）
- 12日（日） 進研模試（2年）
- 16日（木） 3年センター試験受検者説明会
- 18日（土）～19日（日） 大学入試センター試験（115名受験）
- 20日（月）～24日（金） 修学旅行（2年）関西方面：  
生徒129名，引率7名
- 24日（金） 進路検討会（3年）
- 27日（月）～2月6日（木） 教育相談
- 30日（木） 小論文講演会（1年）

#### 【2月】

- 1日（土） 河合全統模試（1・2年），公務員模試（2年）
- 3日（月） 朝課外再開，3年生自宅学習開始
- 4日（火） 大掃除
- 5日（水） 推薦選抜試験
- 6日（木） インドネシアから JICA 青年研修教員一行 計17名本校視察
- 13日（木） 先輩に学ぶ会（1・2年）
- 14日（金） 第2回PTA理事会
- 15日（土） 第2回数学検定
- 17日（月） 学校保健委員会，衛生委員会
- 18日（火）～21日（金） 学年末考査
- 19日（水） 業者による消防設備点検
- 20日（木） 消費者講座（3年）
- 21日（金） 第3回学校評議員会
- 23日（日） 第3回英検二次
- 24日（月） 公務員ガイダンス
- 26日（水） 曾於地区生徒指導連絡協議会第2回定例会
- 28日（金） 同窓会入会式・表彰式

#### 【3月】

- 1日（土） スタディサポート（1・2年）
- 3日（月） 第66回卒業式  
卒業生数：152名（男子72名，女子80名）
- 6日（木）～7日（金） 学力検査
- 14日（金） 合格者発表，合格者集合
- 17日（月） 2年学力検討会1日目

- 18日(火) 2年学力検討会2日目  
 21日(金) 鹿児島大学水産学部練習船「南星丸」見学会  
 25日(火) 修了式  
 28日(金) 離任式  
 教頭：竹井 俊久(鶴丸) 事務長：森川 芳秋(川内商工)  
 数学：塗木 哲哉(大島) 数学：福田 大樹(紫原中)  
 理科：原 智秀(川内商工) 理科：榮楽 将志(鹿児島東)  
 体育：山下 悦子(退職) 英語：柳田 春美(市来農芸)  
 英語：岩満 玲那(鹿児島養護) 養護教諭：小島 照美(退職)  
 事務主査：花堂 加奈(大隅教育事務所)

#### 【4月】

- 7日(月) 新任式, 始業式, 課題考査(2・3年)  
 教頭：大塚 貞敏(開陽定時) 事務長：徳永 友子(大島養護)  
 数学：中村 亨(新規採用) 数学：緒方 勝(末吉小期付)  
 理科：湊 洋之(鹿屋女子) 理科：東馬場 潮(牧之原養護)  
 体育：中宮久美子(岩川) 英語：吉森 智大(出水商業)  
 英語：笠毛雄二郎(期付教諭) 養護教諭：中島みどり(末吉)  
 事務主査：江口 勉(県立図書館)
- 8日(火) 第69回入学式  
 入学者数：普通科 122名(男子63名, 女子59名)
- 9日(水) 課題考査
- 10日(木) 対面式, 身体測定
- 11日(金) 避難訓練(津波を想定し, 高台へ避難)
- 15日(火)～28日(月) 家庭訪問(1年), 三者面談(2・3年)
- 18日(金) クレペリン検査(1・2年)
- 19日(土) スタディサポート(1年), 土曜講座(2・3年)
- 25日(金) 志布志湾遠行(1・2年), 一日遠足(3年)

#### 【5月】

- 7日(水) PTA代議員会
- 8日(木)～9日(金) 地区高体連大会中心日, 特別時間割
- 13日(火)～15日(木) 中間考査
- 14日(水) PTA総会
- 16日(金) OB講演会 講師：村田 博文氏(総合ビジネス誌「財界」代表取締役  
 本校昭和40年第20回卒) 演題：「今,活躍するリーダーの生き方・考え方」
- 17日(土) 土曜講座
- 19日(月) 教育実習開始(3週間)(～6月6日(金))  
 数学(1人), 理科(1人), 英語(3人), 保健体育(1人)
- 21日(水) PTA総会報告会
- 23日(金) 生徒総会, 第1回英単語グランプリ
- 25日(日) 音楽部第12回定期演奏会(於 志布志市文化会館)

## 【6月】

- 4日(水) 第1回中高連絡会, PTA地区代議員会, PTA懇親会  
5日(木) 学年弁論大会  
6日(金) 生徒会役員選挙立会演説会(生徒会長:平野 大雅(2年1組))  
7日(土) 第1回英検一次(校内)  
7日(土)~8日(日) 進研マーク模試(3年)  
9日(月) 振替休日(文化祭のため)  
13日(金)~14日(土) 第66回文化祭  
「新しい文華(ぶんか)を咲かせよう 今を生きるこの場所で」  
弁論大会:最優秀賞 杉元 珠菜「便箋」  
優 秀 賞 堂園 桃子「祖父から学んだこと」  
政井 涼花「本当の家族」  
13日(金) 第1回学校関係者評価委員会  
19日(木) 第2回英単語グランプリ, 小論文模試(3年)  
20日(金) 進路講演会(講師:ベネッセコーポレーション 劉 耕助 氏)  
演題:「希望進路実現のために」  
21日(土) 土曜講座, 公務員模試  
26日(木) スクールカウンセラー来校  
27日(金) 算数・数学教育研究会(曾於)大会高校部会

## 【7月】

- 1日(火)~4日(金) 期末考査  
1日(火)~2日(水) 3年進路検討会  
3日(木) PTA研修視察  
5日(土) 土曜講座  
6日(日) 第1回英検二次  
7日(月) 生徒会役員任命式  
8日(火) 水泳大会  
11日(金) 第一回漢検  
12日(土)~13日(日) 進研模試  
15日(火) クラスマッチ  
17日(木) 第3回英単語グランプリ, スクールカウンセラー来校,  
小論文ガイダンス(3年 講師:海老原 恵子 氏(第一学習社))  
18日(金) 耐震工事に係わる移動(3棟東側)  
1-1→演習室①, 1-2→物理講義室,  
1-3→生物講義室, 1-4→地歴公民講義室  
終業式, 性教育講話  
講師:久保園 サトミ 氏(志布志市役所 技術主幹(兼)・保健係長)  
演題:「今あなた達へ伝えたいこと~自分らしく生きるために~」  
単車実技講習会(於 シブシ昭和自動車学校)  
22日(火)~31日(木) 夏季課外前期  
22日(火)~ 三者面談(3年), 地区PTA(31日(木))まで

26日(土)～27日(日) 代々木マーク模試(3年)

## 【8月】

2日(土) 同窓会総会(松陰会)

4日(月) 中学生一日体験入学

入学者：178名(保護者5名)

内容：学校紹介ビデオ放映, 在校生の話, 体験授業, 体験入部等

18日(月)～27日(水) 夏季課外後期

18日(月)～20日(水) 2年英語コース・サマーセミナー(鹿屋市)

22日(金) 三土会(母親学習会)

23日(土) PTA草刈り奉仕作業, 第1回数検

26日(火) 第6回中学生英語スピーチコンテスト(本校主催, 志布志市文化会館)

28日(木)～29日(金) 課題・実力考査

## 【9月】

1日(月) 始業式, いじめ問題に関する統一LHR

6日(土) 第67回体育祭 テーマ「Reach your limit ～燃え続ける志の炎～」  
(競技・応援・マスコット(3年生)優勝)

10日(水)～22日(月) 教育相談

12日(金) サイバーセキュリティカレッジ

13日(土) 土曜講座

18日(木) スクールカウンセラー来校

20日(土) スタディサポート(1・2年)

20日(土)～21日(日) 進研マーク模試(3年)

24日(水) 第4回英単語グランプリ

25日(木) 志高カレッジ：志學館大学, 宮崎大学, 鹿児島国際大学, 鹿児島大学,  
九州大学, 東海大学, 純心女子大学, 純心女子短期大学,  
鹿児島女子短期大学

## 【10月】

4日(土) 第2回数検

6日(月)～9日(木) 3年卒業アルバム用個人写真撮影

11日(土) 第2回英検一次(校内)

14日(火)～16日(木) 中間考査

15日(水) 職員研修(生徒学習状況リサーチ)

講師：劉 耕助 氏(ベネッセコーポレーション)

16日(木) 県高校教育研究会音楽部会研究協議会(終日)

17日(金) 鹿児島県音楽教育研究大会曾於大会(午前)

18日(土) 土曜講座(1・2年)

18日(土)～19日(日) 進研記述模試(3年)

24日(土) 河合全統記述模試(3年)

27日(月) 芸術鑑賞会(於：本校体育館) 音楽鑑賞：サクソ奏者「MALTA」  
コンサート『MALTA Hit & Run スペシャルライブ』

29日(水) 第5回英単語グランプリ, スクールカウンセラー来校

## 【11月】

- 1日(土)～2日(日) 進研記述模試(1・2年), 大学別プレテスト(3年)
- 4日(火)～7日(金) 県民教育週間に伴う授業公開
- 5日(水) 第2回中高連絡会
- 7日(金) 一斉読書会(LHR)
- 8日(土) 土曜講座(1・2年)
- 8日(土)～9日(日) 進研マーク模試(3年)
- 9日(日) 第2回英検二次
- 12日(水) 実力考査(1・2年)
- 14日(金) ロードレース大会
- 17日(月) スクールカウンセラー来校
- 18日(火) 第2回学校関係者評価委員会
- 19日(水)～20日(木) 職場体験学習(1年)

安楽保育園, 志布志保育園, ひばり保育園, 覚照保育園, 原口学園志布志幼稚園, カトリック志布志幼稚園, 大崎幼稚園, 香月小学校, 大隅中学校, 志布志学校給食センター, 陽春堂内科診療所, 手塚クリニック, 藤後クリニック, びろうの樹脳神経外科・整形外科, ひら動物病院, 下町調剤薬局, 太陽薬局, 鹿屋市役所(総務課), 志布志市役所本庁(総務課), 志布志市立図書館, 大崎町立図書館, 曾於市立図書館, 志布志郵便局, 志布志まちづくり公社アピア, ニシムタ志布志店, ファッションセンターしまむら, ケーズデンキ志布志店, タイガースポーツ, KKスポーツ, 寿スポーツ, トヨタカローラ志布志店, 島津楽器, 若潮酒造株式会社, 国民宿舎ボルベリアダグリ, あすばる大崎(宿泊, 物産), SUMOMO(はとや製菓), ヘアーガーデン DRESS, FM 志布志, 全日空鹿児島支店(空港), チャレンジスポーツ, しぶし整骨院, いぶき整骨院, 志布志消防署, 志布志警察署

- 21日(金) 交通安全教室
- 26日(水) 公開授業(発表者:数学科 中村 亨, 英語科 吉森 智大)
- 27日(木) 曾於地区高等学校生徒指導連絡協議会
- 28日(金) 大隅地区保健体育研究会

## 【12月】

- 2日(火)～5日(金) 期末・卒業考査
- 2日(火) 3年進路検討会
- 3日(水) 1・2学年PTA
- 4日(木) 3年進路検討会
- 5日(金) 防災訓練(火災), 衛生委員会
- 6日(土) 土曜講座(1・2年)
- 6日(土)～7日(日) 河合塾センタープレテスト(3年)
- 12日(金) 統一LHR(性教育)
- 15日(月) スクールカウンセラー来校  
耐震工事に係わる復旧移動(3棟東側)  
演習室①→1-1, 物理講義室→1-2,  
生物講義室→1-3, 地歴公民講義室→1-4

- 18日(木) 第6回英単語グランプリ
- 19日(金) 統一LHR(人権同和教育)
- 22日(月) クラスマッチ
- 24日(水) 終業式, 進路内定者集会
- 25日(木) 学習状況説明会
- 25日(木)～26日(金) 冬季課外, 3者面談(3年)

## 2 職員研修等

### (1) フレッシュ研修

中村 亨 教諭(数学) 年間研修計画に基づいて研修

### (2) パワーアップ研修

吉森 智大 教諭(英語) 年間研修計画に基づいて研修

### (3) 校内研修

10月15日(水) 職員研修(生徒学習状況リサーチ)

講師: 劉 耕助氏(ベネッセ: 鹿児島高校事業部)

## 3 生徒会活動(平成25年度は明記, なしは全て平成26年度実施)

### (1) 体育部

#### ○ 地区大会 主な成績

##### ・春季大隅地区大会

- ・男子ソフトテニス部 団体第1位
- ・女子バドミントン部 団体第2位, 個人シングルス 優勝: 上檔 ほなみ
- ・男子バドミントン部 個人ダブルス 優勝: 池田 大輝, 大迫 拓斗
- ・陸上部
  - 男子総合 第3位
  - 女子総合 第2位, フィールドの部 第1位
  - 男子200m 第1位: 平野 大雅, 女子400m障害 第1位: 今福 真理
- ・男子弓道部 団体第2位

##### ・秋季大隅地区大会

- ・女子バドミントン部 団体第2位, 個人ダブルス 優勝: 上檔 ほなみ, 上村 晴菜  
個人シングルス優勝: 上檔 ほなみ
- ・駅伝 大隅地区高校駅伝競走大会 女子3位: 岡本 麻莉菜

#### ○ 鹿児島県大会 主な成績

- ・陸上部 男子やり投げ 第2位: 津曲 浩太  
県新人陸上大会 男子400m 第2位: 平野 大雅
- ・水泳部 女子50m平泳ぎ 第1位: 池宮 早耶  
男子100mバタフライ 第4位, 200mバタフライ 第4位: 有嶋 貴裕  
男子200m自由形 第6位, 400m自由形 第7位: 安田 雄生
- ・駅伝 県高校駅伝競走大会 男子 躍進賞: 川原 幸也

## (2) 文化部

- ・ E S S 部 第7回鹿児島純心女子大学スキットコンテスト高校生の部  
銀賞：「TEAM TAKUMA」 武石 拓真, 柴 孝太郎, 和田 夏音, 栞山 梨花
- ・ 書道部 平成 25 年度鹿児島県高等学校揮毫大会 優秀賞：櫻木さやか, 益村千夏  
平成 25 年度鹿児島県高等学校書道展 秀作賞：櫻木さやか, 益村千夏  
平成 25 年度鹿児島県高等学校書道展  
高文連賞：和田 友希菜 優良賞 五位塚 里菜  
曾於・肝属地区高等学校揮毫大会  
準大賞：吉國 都萌 高文連賞：船田 智元, 吉森 樹生
- ・ 音楽部 平成 25 年度第8回大隅地区高等学校ソロ・アンサンブルコンテスト  
ピアノ部門 金賞 及び 最優秀演奏者賞：林 亜華里  
管・弦・打楽器ソロ部門 金賞：川原田 倫  
管・弦・打楽器アンサンブル部門 金賞：酒匂 美里, 斎藤 愛美, 中村 優花  
最優秀伴奏者賞 及び ピアノ部門 金賞：木村 莉子

## (3) 受賞等

- ・平成 25 年度日本バツハコンクール全国大会 金賞・ベスト賞：林 亜華里
- ・平成 25 年度第 27 回 感動作文コンクール 佳作：木村 莉子, 淵上 真穂
- ・平成 25 年度第 59 回青少年読書感想文全国コンクール中央審査 入選：永田 魁刀
- ・平成 25 年度鹿児島県高等学校書道半紙展  
優秀賞：永野 千愛, 和田 侑一朗, 中原 璃子
- ・「小さな親切」作文コンクール  
特選：外牧 美月 入選：上村 晴菜, 奥野 晴香, 村岡 佑哉  
実行賞：寶田 希未, 政井 涼花, 永野 由人, 有嶋 貴裕
- ・実用英語技能検定合格  
2 級：宮本 佳苗, 齊藤 愛美, 留中 真鼓, 福永 美咲, 山之内 孝, 川津 愛,  
酒匂 美里, 神宮司 愛弓, 寶田 希未, 柳原 由佳
- ・第 38 回鹿児島県高等学校音楽コンクール ピアノ部門 金賞：林 亜華里
- ・ピティナ・ピアノコンペティション 奨励賞：林 亜華里
- ・第 67 回体育祭  
新記録 男子 400 m 平野 大雅 55 秒 50  
女子 200 m 牧野 彩夏 30 秒 55
- ・第 51 回南日本硬筆展 優秀賞：益田 采奈
- ・税に関する高校生の作文コンクール 大隅税務署長賞：久木山 詩織
- ・第 8 回全国高校生歴史フォーラム 優秀賞：鶴園 なつみ, 門倉 ななみ
- ・宮日音楽コンクール ピアノ部門 入選：林 亜華里

## 4 大学等合格状況 ( ) 内は平成 24 年度

国公立大学 23 名 (35) 私立大学 113 名 (133) 準大学校 1 名 (1)  
公立短大 5 名 (1) 私立短大 14 名 (16) 準短期大学校 1 名 (1)  
医療系専修学校 30 名 (23) その他の専修学校 18 名 (27) 就職 7 名 (8)

5 主な刊行物

研究紀要	「松径」第 22 号
新聞	P T A 新聞「青松」
文集	「濤声」第 311 号
同窓会報	「松蔭会同窓会便り」
志布志高校便り	128 号～ 137 号
校内報等	進路指導部：進路指導部だより「A・C・GO！」 図書委員会：「松蔭」第 36 号, 「図書館だより」 保健委員会：「保健だより」 生徒指導部：生徒指導部便り「～叡・志・剛～」

## 編集後記

研究紀要『松径』第23号発刊のはこびとなりました。

日々の多忙な教育活動の中、執筆を快くお引き受け下さった先生方や、本誌発行に際してご協力いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

編集に際しましては十分に注意したつもりですが、不備な点等がございましたら何卒ご容赦下さい。

この研究紀要『松径』第23号が、多くの先生方の今後の教育活動の参考となれば幸いです。

### 研究紀要『松径』第23号

発行日 平成27年3月

発行者 鹿児島県立志布志高等学校長 森永 徳雄

発行所 鹿児島県立志布志高等学校

〒899-7104

鹿児島県志布志市志布志町安楽178

電話 (099) 472-0200

編集 志布志高校教務部研修係